汎用人型決戦兵器 人造人間

エヴァンゲリオン

ヒトの姿をした使徒殲滅兵器

NERV ゼーレ

EVANGELIONS 00-13

E計画が生み出したEVAシリーズ

人類が使徒と渡り合うために造り出された兵器――それが人造人間エヴァンゲリオンである。EVAは、E計画により零号機から13号機まで、計14機が建造された。

使徒と同様にA.T.フィールドの展開及び中和能力を持つEVAは、南極にて発見されたアダム(使徒の始祖だという)とされる巨人のコピーである。とはいえ未知の存在の完全解析には至らず、未知の部分を残したまま運用された。しかし、皮肉にもその未知の部分(例えば暴走現象)に助けられた結果、全ての使徒殲滅に成功している。

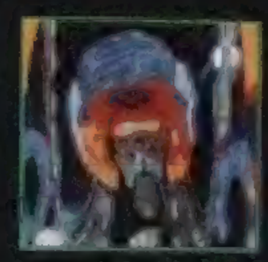
EVAは基本的に有人で稼働し、それぞれ専属パイロット、チルドレンと呼ばれる適格者を要す。彼らは14歳の子供たちであり、操縦するには何らかの条件(EVAのコアに宿されているという魂と関係があると噂されている)が必要である。ただ、EVAと精神的にシンクロすることで常に精神を侵食される危険が伴う。

対使徒兵器として建造されたEVAだが、隠された運用目的があり、ゼーレの悲願である人類補完を行う際に何らかの役割を果たす。これこそが本来の用途だったようだが、詳細は謎に包まれている。

"暴走"を引き起こし、EVAの中でも異彩を放つ初号機。ゼーレの言によれば、同機はアダムではなくリリスより造られたものだと推測できよう。

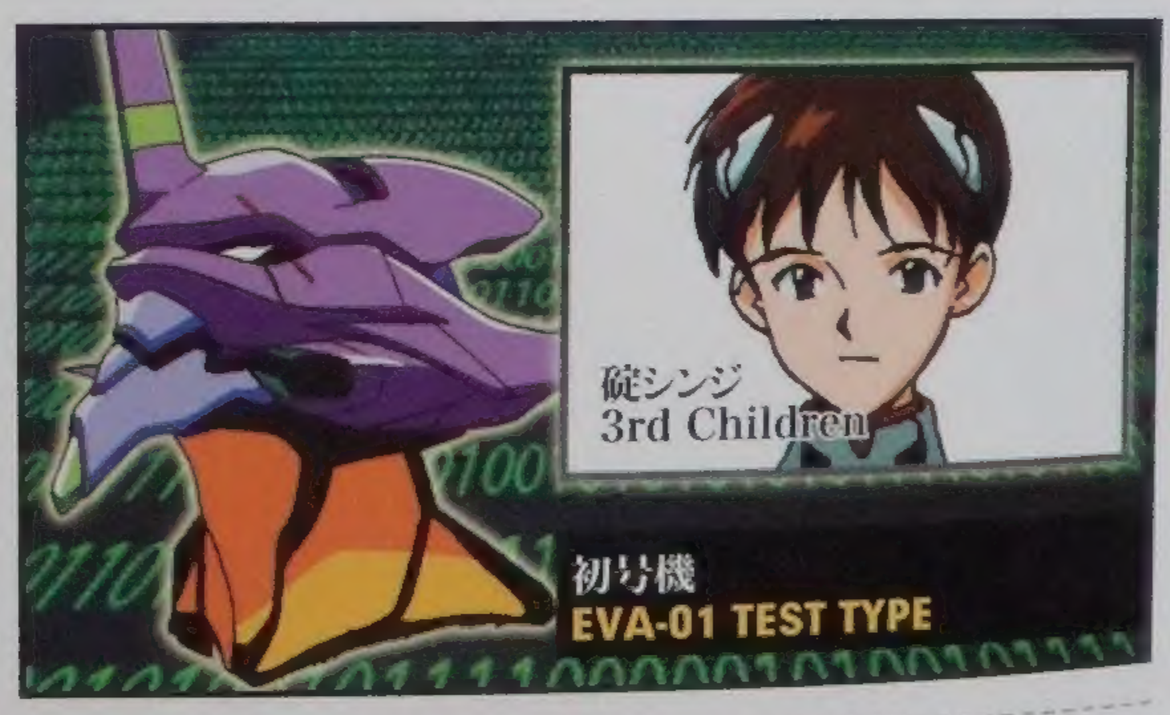
関連事項 RELATED MATTERS

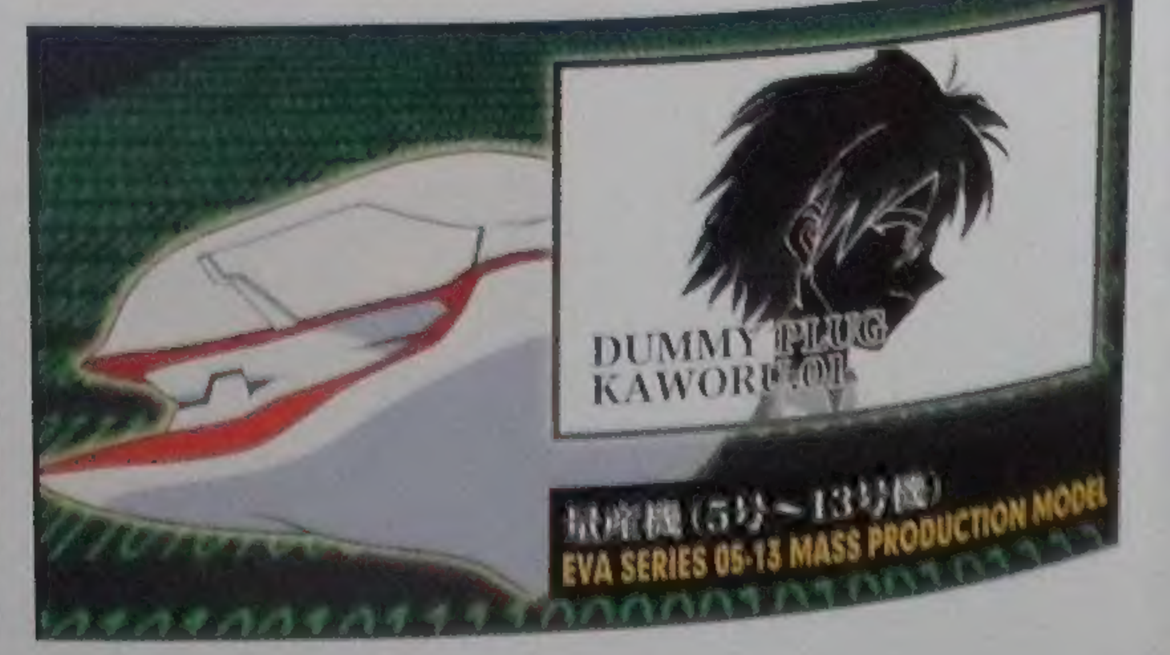
- E計画
- 人類補完計画
- アダム
- リリス



アダムのコピーを造る計画であるという。14年の歳月と天文学的な経費を費やして生み出された計画の成果がEVAである。

建造されたEVAシリーズと操縦者たち





対使徒兵器である人造人間エヴァンゲリオン

対使徒戦では白兵戦によりA.T.フィールドを中和するのがセオリー。EVAは五指のマニピュレーターで人間同様の武器を駆使した戦法が可能。また、思考でEVAを操縦する適格者にとって、人型というのは操縦者が自分の体と同じように動きをイメージしやすいという一面もあり、対使徒戦に最適の姿と考えられる。

対使徒兵器であるEVAだが、最終的にNERV本部側とゼーレが対立。EVA同士の戦いが繰り広げられた。

アダムという未知の存在を使わず、人類の英知のみで完成させた対使徒兵器J.A.だが、その性能はEVAに遠く及ばず、謀略により歴史から消え去っている。

←↑人体と同様の身体構造と動きを持つEVA

↑EVAの手足

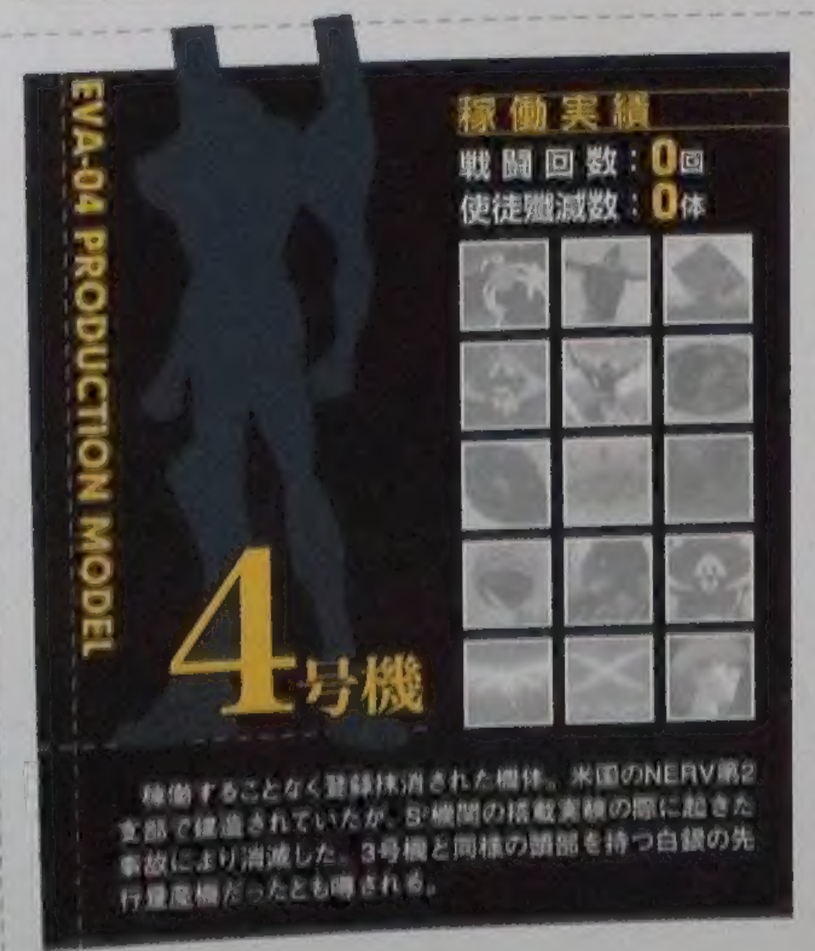
EVAシリーズの実戦記録

EVAのプロトタイプ。試作機のため性能は劣る。当初は山吹色の機体だったがヤシマ作戦で大破。青い装甲に改装され実戦配備された。アシストに徹した戦闘をこなす。最終的には自爆により機体消滅。

EVAのテストタイプ。操縦者を守るように幾度も暴走を起こし、結果、EVAの中でも最大の戦果を誇る。使徒を捕食してS²機関を摂取した。最終的に人類補完計画の中核を担ったというが詳細は不明。

EVAの先行量産機。ドイツのNERV第3支部にて建造後、海路で日本に運ばれ本部に配備される。安定した性能を持つが、適格者の不調により使徒戦後半は連敗。最終的には量産機に破壊された。

友軍の先行量産機。米国のNERV第1支部で建造されていたが、4号機の事故をうけ本部へと移送された。第13使徒バルディエルに寄生され使徒と化し、初号機によって殲滅された不遇の先輩である。



稼働することなく登録抹消された機体。米国のNERV第2支部で建造されていたが、S²機関の搭載実験の際に起きた事故により消滅した。3号機と同様の頭部を持つ白銀の先行量産機だったとも噂される。

S²機関を搭載した5号～13号機。使徒との戦闘はなく、本部制圧に投入。ダミープラグにて稼働し、飛行能力と再生能力を持つ。標準装備はロンギヌスの槍のコピー。弐号機を捕獲後、サードインパクトを発生させ、最終的に石像と化す。

YUI IKARI

Character Sheet

碇ユイ

Sheet 16

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

人類の生きた証を残すため

ゲヒルン

碇ユイ

YUI IKARI

E計画の礎となった女性

YUI IKARI

碇ユイ

YUI IKARI

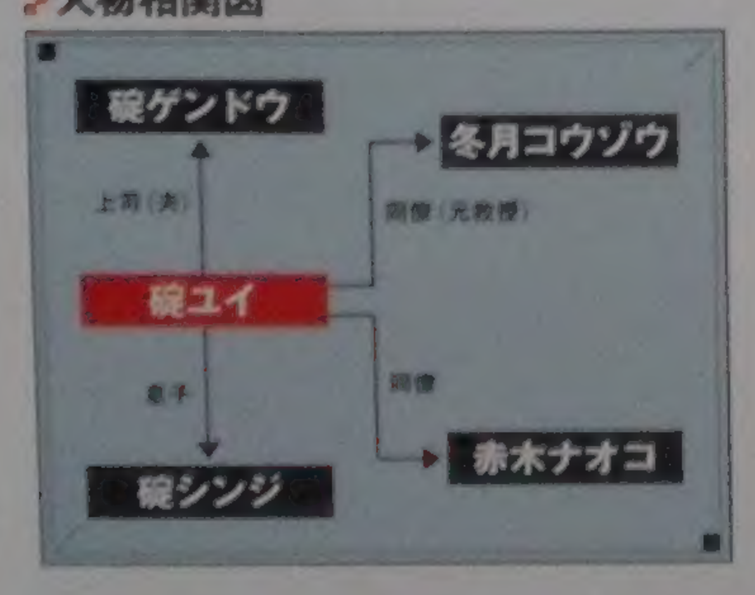
個人情報

名前	碇ユイ
年齢	享年27歳
国籍	日本
生年月日	不明
血液型	不明
所属	ゲヒルン

家族をつなぎ、人類をつなぐ母――碇ユイは人類補完計画の終着地点とも言える女性である。彼女はゼーレをバックに持つとともに、有能な科学者であった。その出自から考えると、六分儀ゲンドウと出会ったことは必然だったのかもしれないが、その出会いこそがユイの進む道を決定づけるターニングポイントとなった。ゲンドウ、冬月、赤木ナオコらとE計画の基礎を作り上げた人物として、彼女の人類に対する功績は非常に大きい。その計画半ばにおいて、初号機の起動実験が失敗――被験者であったユイは帰らぬ人となるが、このことこそがNERV、さらには人類補完計画の方向性を変える転換点となった。

ユイの活動はあくまでE計画の遂行に影響を与えるものであったが、むしろ彼女が周囲に与えた影響は、EVA初号機に取り込まれてからの方が大きくなっている。その影響は初号機を通してシンジへと伝わり、人類補完計画という形で具現化した。また、ゲンドウが自身の全権力を使ってユイに再び会うことを目指した同計画は、ゲンドウのユイに対する愛情の表れであったとも見て取れる。周囲からのプレッシャーや責任の重さを感じているシンジとゲンドウを暖かく見守るユイは、まさしく母性の象徴のような包容力でふたりを迎えている。初号機を依代とした補完計画遂行の結果、ユイと再会したゲンドウは安らかな最期を遂げ、シンジは未来を選択する勇気を見出した。碇ユイはひとりの妻であり母であるとともに、人類を未来へと導く道標という、重要な役割をも果たしていたのである。

人物相関図



関連人物

- 碇ゲンドウ
- 碇シンジ
- 冬月コウゾウ
- ゼーレ
- EVA

NERV最高司令官を務める冷徹な男。人類補完計画を立案し、ゼーレの承認を受けてその遂行に従事している。

表情

←優しげな笑みと、意志の強そうな瞳が印象的なユイ。彼女の消失は家族の心に深い傷を与えた。ゲンドウとシンジの不仲を、彼女はどのように見守っていたのだろうか。

初号機の被験者になることは、シンジのためでもあると口にしたユイ。この時から、既に何かの予感があったとも考えられる。

←常に未来を見据えていたユイは、非常にポジティブな思考の持ち主だったと考えられる。彼女が生きていれば、シンジの現在の性質は形成されなかったかもしれない。

↑うつむき加減の静かな横顔は、綾波レイに通じるものがある。独特のショートヘアも、頭髪の色こそ違えど、レイと似通った印象を与える外見的な特徴と言えるだろう。

私服

正面

←↓学生時代にハイキングをした時の服装。ウェストポーチやリュックなど、機能的な装備を揃えているあたり、意外にもアウトドア派だったのかもしれない。

背面

正面

→白衣着用の機会が多かったものと思われるユイ。ピンクの開襟シャツはやわらかなパステル色だが、羽織った白衣は理知的な雰囲気を漂わせている。

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー/EVA制作委員会

碇ユイ という存在

←目を輝かせ、若干頬を染めているユイ。若々しく、表情豊かな彼女だが、ゲヒルンでの勤務中などには見られない貴重な表情と言えるだろう。

←↓仕事の時とは違い、非常にラフな私服。ノースリーブとミニスカートの活動的で可愛らしいファッションは、明るいイメージのユイによく似合っている。

京都大学の生物工学を専攻する優秀な女性であったユイ。研究心は強かったようだが、卒業後には結婚という選択肢もあると考えるなど、ごく普通の幸せを思い描く一面も持っていた。ゲンドウと結婚したことで特殊な環境に身を置くことになったとはいえ、彼女は結婚生活とゲヒルンの仕事を両立させ、公私にわたってゲンドウを支え続けている。最愛の夫と息子に囲まれて人類の未来のための研究に携わるユイは、ゲヒルンの主要メンバーの中で最も幸せな生活を送った人物であろう。彼女の包み込むような母性も、その心理の表れなのかもしれない。

ユイは、たったひとりでも生き続けることが、人類の生きた証になるという考えの持ち主であった。そのため、その中に宿る人の心とともに無限に生きられる存在――EVAに特別な想いを持っていたようだ。また、初号機の中で思い悩むシンジに幾度となく生への希望を語りかけるなど、未来に対する想いが非常に強かったようである。そんな彼女にとって、ゼーレによる人類補完計画は必ずしも望ましいものではなかったと考えることもできるだろう。

生物工学において鋭い視点を持つユイが「家庭」という言葉を口にしたことに、冬月は少なからず驚いたようである。彼もまたユイとの再会を望み、ゲンドウが打ち立てた人類補完計画を進めることになった。

ゼーレ との関係

正確な構成メンバーは、部外者にとって知る術がないゼーレ。その中に、ユイと何らかの繋がりを持つ者がいたかも定かではない。

ユイのバックにはゼーレが深く関わっているとされるが、その関係の詳細は不明である。ただし、学生であるユイと既に繋がりがあること、若い頃のゲンドウが知り得るほどには周知の事実であったことなどを考えると、例えばゼーレのメンバーの近親者であったなど、かなり深い繋がりを持っていたとも推測できる。ゲヒルンにおけるユイの行動に対してゼーレから何らかの指示があった可能性も考えられる。使徒との戦いの終盤にゲンドウとゼーレの関係が冷えきったことも、ユイという仲介者を失ったことが一因となっているのかもしれないが、ユイ亡き今となってはすべての真相は藪の中である。

E計画 における役割

独自の調査でセカンドインパクトの真相に肉薄した冬月は人工進化研究所を訪れ、ユイと再会した。ユイがこの場所にいることこそ、研究所にゼーレの息がかかっているという何よりの証拠である。

実験直前の「シンジに明るい未来を見せておきたい」という言葉がユイの最期の言葉となってしまった。ユイが消失したこの日を境にゲンドウは変わり、一連開発度の失敗の後、人類補完計画が彼の手で立案された。

シンジを育てる傍ら、ゲヒルンが推し進めるE計画に積極的に参加していたユイ。人が造りし神であり、人を守るために存在し続けるEVAを「人類の生きた証」と言ったユイは、科学者としてE計画に大きな期待を寄せていたようである。また、EVAが次世代の希望になると信じていたことが計画を進める動機となってもいたようだ。当初から直接開発に関わっていた彼女にとって、プロトタイプの成功を経て造られた初号機とは、計画の大きな到達点だったのだろう。自ら行った起動実験で消失するという悲劇に見舞われたが、E計画はゲンドウらの手でさらに加速していくこととなった。

碇ゲンドウとの関係

ゲンドウを「かわいい人」と言い切るユイ。ゲンドウの思惑を理解していたのかもしれないが、好意がなければこの形容は浮かばないだろう。

最期の瞬間、ゲンドウはユイに対して自分の本当の気持ちを伝えた。ユイ以外にゲンドウが本音を話せる相手はいなかったのかもしれない。

ユイとゲンドウがどのように出会ったのかは定かではないが、ふたりの交際は、ゲンドウがユイの背後にあるゼーレに近づくための手段と言われていた。しかし、結婚後はシンジをもうけ、仕事上でも共にゲヒルンでの研究を進めるなど、夫婦間には確かな愛情が生まれていたようである。それゆえに、ふたりで築き上げてきたE計画がユイの命を奪ったことに対するゲンドウの傷は深く、強迫的ともいえる姿勢で人類補完計画を進めるきっかけを作ることになってしまった。人類補完計画がこのふたりの関係から始まっていることを考えると、人類にとって非常に重要な夫妻であったことは間違いない。

髪や瞳の色こそ違うものの、確かにユイと重なるものがあるレイ。2015年当時のレイは、さらにユイの面影が濃くなっている。

ユイ消失後、ゲヒルンの手によって生み出されたと考えられている綾波レイ。その容姿は、見た瞬間に赤木ナオコが直感したほどユイに酷似していた。ゲンドウはレイを常に側において寵愛していたが、ユイに再会するという目的を持った人類補完計画において、結局彼女はユイの身代わりでしかなかった。レイというユイの身代わりが完成してしまった事実がユイへの想いに拍車をかけ、彼をごく個人的な理由による人類補完計画へとかき立ててしまったとも考えられる。ゲンドウや冬月にとって大きすぎるユイという存在は、彼女自身の預かり知らないところで周囲に多大なる影響を与えていたのである。

綾波レイとの関係

碇シンジとの関係

「幸せがどこにあるのかわからない」と語るシンジの前に現れ、少しずつ話す息子の気持ちを、受け止めるように見つめ続けるユイ。シンジは母に後押しされるようにして、人類の未来を自らの意志で選択した。

幼いシンジとともに訪れた湖畔にて、ユイは冬月に向かってEVAへの想いを打ち明けた。ユイ独自のE計画に対する気持ちと未来への希望は、ゲンドウすらも詳しくは知り得なかったのではないだろうか。

ユイとシンジがともに過ごした時間は、3年間と非常に短い。ユイの方はゲヒルンの仕事で多忙を極める身でありながら、仕事場へシンジを連れてくるなど大変可愛がっていた様子が窺える。シンジの方はおそらくはっきりとした母の記憶はないのだろうが、無償の愛を注いでくれるはずの母を失ったことはトラウマとなっているようであり、レイやアスカなど周囲の女性に母性を求めている節がある。父が厳格であったことも、その傾向を強める要因となったのだろう。また、初号機と母とのつながりも感じており、直接顔を合わせることはなくとも、シンジとユイは初号機を通して強く結びついていたようだ。

自発的に作動した初号機に、シンジは「母さん」と呼びかけている。その手は、親を失ったシンジを励ましているかのようでもあった。

ゲンドウと幼いシンジの眼前で消失したユイ。サルベージの努力も虚しく彼女がこの世に戻ることはなかったが、初号機には彼女の魂が留まっていると見る向きもある。当初から初号機とシンジとのシンクロ率が高かった点、シンジが生命の危機にさらされるとそれを守るかのように暴走する点などには、何らかの意思のようなものが感じられる。一方、シンジも初号機の中に母の存在をおぼろげながら感じる機会が多い。確たる科学的根拠はないものの、初号機の活動がまるでシンジの心や身体に呼応しているようであるのは、肉体が消失してなお息子を想う母の気持ちが失われていないためとも考えられる。

EVA初号機との関係

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー・EVA製作委員会

碇ユイ消失事件

Sheet 03

DISSOLVING INCIDENT OF YUI IKARI

Illustration by Kaito Domoto

EVAとの最初の接触実験は、碇ユイを被験者として当時の人工進化研究所にて行われた。この実験は研究所所長であった碇ゲンドウのほか、冬月コウゾウ博士、赤木ナオコ博士ら組織の主要メンバー全員が立ち会う重要な実験であった。しかし、この実験は大きな犠牲を払うことになってしまう。

EVA接触実験中に起きた事故

E計画における ターニングポイント

TACTICS SHEET

調査機関ゲヒルンが行っていた「アダム再生計画」――通称、E計画。セカンドインパクト時に南極大陸に出現したとされる光の巨人を、人類の手で再生させようというこのプロジェクトにより建造された汎用人型決戦兵器こそ、人造人間エヴァンゲリオンである。この既存のテクノロジーとはまったく異なる光の巨人のコピーを起動させるためには、パイロットが精神的な結合である“接触”を本体と行わなくてはならなかった。その起動システムの最初の実験では、ある悲劇的な事件が発生している。被験者であった女性科学者、碇ユイの消失である。

碇ユイと建造中であったEVAとの接触実験は、2004年に行われた。EVA起動にともなうヒトとの接触の必要性は、以前より判明していたことであり、その研究には遺伝子工学の権威でもあった碇ユイ自身も携わっていたことは疑いない。セカンドインパクト直前、葛城調査隊も光の巨人と接触を図ったことが記録に残っており、その際はヒト遺伝子を人為的にダイブさせたようだ。おそらく類似した構造を持つと考えられるEVAにも同様の接触が必要であったと考えられるが、その詳細は公表されておらず不明となっている。いずれにせよ、いわばいきなり人体実験を行わなければならない「非人道的」なテストが実行されたのである。もっとも、この段階ではゲヒルンによるE計画の存在は秘密裏に進められていたため、世論からのバッシングを受けることなく、慎重に準備が進められていた。にもかかわらず、その接触実験ではイレギュラーな事態が発生し、碇ユイはEVAに取り込まれて消失してしまったのである。この事件の情報の一部がマスコミにリークされ、「人工進化研究所でのヒトゲノム実験による失敗」としてスキャンダラスに報じられることとなった。

それでもEVAとの接触実験はその後も続けられており、ドイツのゲヒルン第3支部にて同様の実験が行なわれたようだ。この時も実験は失敗しており、被験者の肉体の消失こそ避けられたものの、その精神は完全に崩壊してしまったと言う。しかし、これらの実験とその後の研究が功を奏してか、のちに「適格者」と呼ばれる特定の人間であれば、EVAと正常かつ安定してシンクロできることが判明。「適格者」の選定がマルドゥック機関によって行われ、EVAはその運用を可能としたのである。それでもロールアウト時、EVAの起動確率は0.000000001％（通称オーナインシステム）とされており、その運用は決して容易なものとはなっていない。

関連事項 RELATED MATTERS

- 碇ユイ
- 接触実験
- E計画
- 初号機
- ゲヒルン

人工進化研究所に所属する科学者で、EVAとの接触実験に自ら志願した。同研究所所長、碇ゲンドウの妻でもある。

碇ユイ消失事件

DISSOLVING INCIDENT OF YUI IKARI

EVA接触実験

南極で発見された光の巨人のコピーとされるEVAを起動させるためには、ヒトとの精神的な接触が必要であった。当初からある程度のリスクは想定されていたが、接触実験は犠牲をともなうものとなってしまった。

E計画に基づき建造が進められていたEVAとの接触実験は、2004年に日本の人工進化研究所の施設内にて行われた。被験者となった碇ユイは、自ら志願して実験に臨んだとされている。準備プロセス段階ではまったく異常は認められず、無事に実験は成功するかに思われていた。しかし、接触実験開始直後、イレギュラーな事態が発生。碇ユイの精神と肉体はEVAに取り込まれて消失してしまう。この不測の事態に赤木ナオコ博士がサルベージ計画を発案。実際に救出作業も試みられたが、結局サルベージは失敗している。碇ユイは事故死したものとして処理されることとなった。

E計画の研究開発拠点であった人工進化研究所は、現在の第3新東京市がある芦ノ湖付近に建設されていた。EVAとの最初の接触実験もこの研究所の施設内にて行われている。

碇ユイが被験者となったEVAとの接触実験。具体的にどのような装置が用いられたかは不明だが、システム的にはエントリープラグの原型であったと推察出来る。

TACTICS SHEET

目的と主要メンバー

EVAとの接触実験は、当時の資料が公開されていないため詳細は不明である。ただ、現在のEVAのコントロールシステムであるエントリープラグのシステムと同等に、被験者をL.C.L.内に置きA10神経接続を試みるものであったと類推される。これは単にEVAと搭乗者を物理的に接続するだけではなく、精神的にも接続するものであり、初期段階においてその安全性は完全に担保されていなかったと思われる。おそらく接触実験は、単なる実験に留まらず、安全性の確認も兼ねていたと考えるのが妥当であろう。また、実験にはゲヒルンのトップメンバーが全員立ち会っており、その重要性も伺われる。

碇ユイによる接触実験に際しては、当時のゲヒルンのトップクラスメンバーのみならず、被験者の要望で、当時まだ幼なかった実子(のちのサードチルドレン)も立ち会っていた。

実験の失敗によりEVA初号機に取り込まれてしまった碇ユイは、死亡したものとされた。その墓標はセカンドインパクト慰霊のための集団墓地内に形式的に建てられている。

KEY PERSON

接触実験は、ゲヒルンのトップメンバーであった碇ゲンドウ、冬月コウゾウらの立ち会いのもと行われた。

碇ゲンドウ

冬月コウゾウ

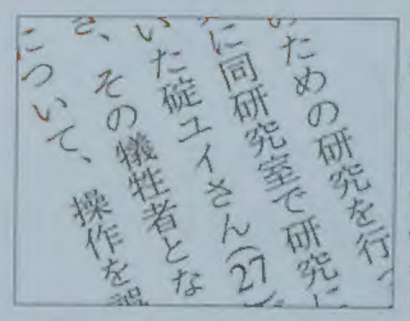
赤木ナオコ

碇ユイ

TACTICS SHEET

事件後の世論

EVAの開発は極秘に進められていたはずだったが、この事故はなぜかスクープとして報道され、世論を大きく騒がせた(ただし、E計画自体の情報は漏れておらず、事故は遺伝子関係の研究にともなうものとされた)。実験の是非は最高裁にまで持ち込まれたが、最終的には無罪判決が下り決着が付けられている。しかし、極秘とされたE計画の情報が、どこからリークされたのかは不明である。



接触実験の失敗をスキャンダラスに報じる当時の新聞記事。しかし、E計画での事故ではなく、遺伝子研究の過程で発生したバイオハザードであるとされていた。

特記事項

碇ユイの家族関係

碇ユイは、その姓から明らかなように、のちにNERV総司令となった碇ゲンドウの妻であり、サードチルドレンである碇シンジの母親である。もっともゲンドウは当初、六分儀姓であり、形式上は婿養子であった。一説によると、碇ユイの家系がゼーレ有力者との血縁関係にあり(実際に彼女はセカンドインパクト以前からゼーレに加入していた)、ゲンドウはその人脈と資金力を目当てに碇ユイに接近したためと噂されている。一方でゲンドウは碇ユイを深く愛していたとも言われており、その真偽の程は定かでない。なお碇ユイはサードインパクトを未然に防ぐため、ゼーレの考えやEVAの開発に賛同していたようである。

碇ゲンドウがセカンドインパクト調査隊に同行した冬月に渡した結婚報告のハガキ。ゲンドウが求めたのは、ユイの家柄とも言われている。

▶碇ユイ

遺伝子工学の権威であり、学生時代は冬月コウゾウの研究室に出入りしていた。ゲンドウよりも先にゼーレの一員として活動しており、結婚、出産後もその研究機関ゲヒルンに所属、E計画に携わっていた。

作戦報告

E計画のその後

碇ユイ消失事件のあと、人工進化研究所の所長である碇ゲンドウは、1週間の謎の失踪を遂げている。ただし、研究所への復帰時にはキール・ローレンツ議長により人類補完計画の実施プランについて承認を得ていたようだ。以降、ゲヒルンはこの人類補完計画に沿って活動を続け、2010年に解体。人類補完計画の実行機関である公然組織、特務機関NERVが発足し、ゲヒルンのメンバーはそのままNERV職員へと身分を改められている。一方、E計画も併行して続行され、EVAの建造に合わせて接触実験も続けられた。E計画自体も人類補完計画とリンクしていたためで、来るべき使徒襲来に備えてEVAを完成させる必要があったのだ。

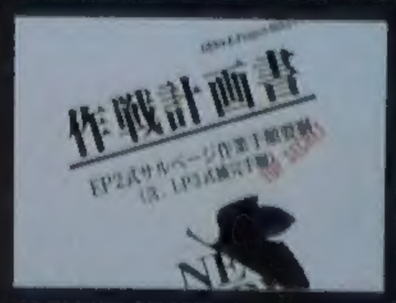
接触実験失敗後、碇ゲンドウは人類補完計画の実行に着手。また、その後ゲヒルンは解体され、特務機関NERVが発足する。

来るべき使徒襲来を睨み、E計画は頓挫することなく進行。2015年には初号機他計3機のEVAが完成している。

追加報告

サードチルドレンのサルベージ

碇ユイ消失事件に際して、赤木ナオコ博士が緊急に作成したサルベージ要綱であるが、それから11年後の2015年に、奇しくも碇ユイの実子であるサードチルドレンを救うため、これを改定したものが用いられている。事の発端は、NERV本部に深刻な被害を与えた第14使徒に対して反撃に出たEVA初号機に搭乗中のサードチルドレンが、シンクロ率400%という異常な状況になったことにある。初号機はいわゆる暴走状態で使徒を撃滅するに至ったものの、パイロットは自我境界線を失い、その肉体はエントリープラグ内のL.C.L.と同化してしまった。この状況が、碇ユイ消失時のケースと類似していると見抜いた赤木リツコ博士は、11年前のサルベージ要綱に手を加えて、サードチルドレンのサルベージ作業を試みることにしたのである。



赤木リツコ博士が作成したサードチルドレン・サルベージ計画の作戦計画書。赤木ナオコ博士が碇ユイ救出のために作成したプランをベースにしている。

赤木リツコ博士の計画書に基づき作業が行われたが、プラン通りには行かず一時は失敗かと思われた。だが理由は不明ながらサードチルドレンは生還した。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー EVA制作委員会

国際情勢

大災害により大きく変貌を遂げた世界の情勢

大災厄であるセカンドインパクトにより、地球規模での気候風土や地形的な変化が起こり、文字通り世界地図は書き変えられた。だがセカンドインパクトは、そうした地理的な要素だけでなく政治経済上の勢力地図をも大きく書き変えた。

20世紀――即ちセカンドインパクト発生前の国際的情勢は、アメリカをリードオフマンとした欧米先進国協調の形を中心に動いてきた。とはいえ、グローバルな意味合いでの統一と協調が必ずしもなされていたわけではなかった。しかし、セカンドインパクトにより災害、飢餓、紛争などが多発し、各国とも他国の援助よりも国内の情勢安定と再建を優先する必要に迫られた。そこで、グローバルな視点での復興協調を担う組織として、国連が急速に台頭することとなる。国連の常任理事を務めていた国家が主導的な立場となり国連の再編は進められていった。特に各国の軍隊が国連軍へと再編されたことで、それまでとは桁違いの軍事力と権限を持った国連が、名実ともに国際社会の警察権と司法権を担うこととなった。なお、この出来事は、セカンドインパクト以前から国連と深い繋がりを持っていたと考えられるゼーレが、国際政治を裏から統括する構造を確立した要因であったとも言えるだろう。

このような立場から国連が積極的に動いたことにより、世界的な混乱や紛争は一応の解決に至り、以降は事実上、国連を中心とした緩やかな統一国家という形で世界情勢は安定しつつある。その中で、国連再編にも尽力した日本が、国連においても重要な位置を占めるに至り、第2新東京市への国連本部の移管が決定。さらに国連主導による第3新東京市の建設や、国連管轄下の特務機関NERV本部の設営など、国連の重要施設が次々と日本に建設された。これらの大きな流れは、やがて2015年に日本で頻発する使徒襲来へと繋がることとなる。

セカンドインパクト原因は大質量隕石
国連正式発表
光速の数十%で直
予測・回避不可能の惨
数億年に一度の確率

関連事項

- 国連
- セカンドインパクト
- NERV
- ゼーレ

第2新東京市に本部を置く地球規模の巨大組織。セカンドインパクト後、国際情勢のイニシアチブを取り、安定に導いた。

Illustration by Takuya Io

セカンドインパクト後の紛争と世界政府としての国連

セカンドインパクトがもたらした被害は確かに甚大なものであったが、ある意味でそれ以上に深刻だったのは、その後に起こった世界的な情勢不安であった。地球規模の飢餓や難民同士の紛争などが各地で発生し、世界中へと拡大した。また2000年における日本の首都、東京はテロ攻撃を受け完全に破壊されるなど、まさに「地獄絵図」と呼ぶに相応しい状況が世界中に蔓延していた。それは従来の先進国主導型の協調路線では収拾のつかないものであった。そのため、国連が世界規模での復興と再建を担う組織としてその任を委されることとなり、発言力と権限強化のための再編成が行われていった。このように国連が国際情勢のリードオフマンとして機能することで、国連は事実上の世界政府という立場をとり、国際情勢は一応の安定を保つことに成功した。

本土を発した艦隊。再編された国連軍は、実質的には多国籍軍といってもいい。実際の艦隊は、おもに米海軍とロシア海軍で構成されていた

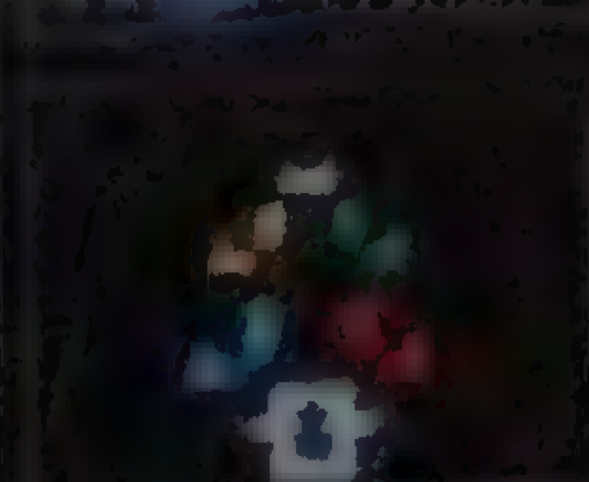
特記事項

国連本部の移管について

再編された国連本部は、2007年から日本の第2新東京市にその本部機能が移管されている。一般には国連再編に尽力し、国連において確固たる地位を得た日本の発言力増大に伴うものであると考えられている。

その一方で、日本は使徒襲来を受ける最前線の国でもあり、その殲滅のための国連直属の特務機関NERVの本部が箱根付近の第3新東京市に置かれている。NERVは国連内に組織されている人類補完委員会の実働機関であり本部移管後の2010年に設立。また第3新東京市自体も国連主導で建設されたという経緯もあり、国連及び人類補完委員会の背後に存在するゼーレによる、一種の中央集権的な思惑も見え隠れしている。

2003年箱根付近に設置されていた人工進化研究所。ここは国連直轄の施設であり、当時から国連と日本がそれなりに重要なポジションであったことを伺わせる。



国連内に設置されているという人類補完委員会。メンバーは国連の実質的なトップとも言える独、米、仏、英、露の各国代表。これに加えNERV司令官の碇ゲンドウも名を連ねている。

大災厄が与えた変化と国連を中心とした国際情勢

セカンドインパクトによって国際情勢も一変。[illegible]のために再編された国連は、世界政府の役割を担うことになる

2000年、インド－パレスチナ間で発生した難民紛争や、テロリストにより旧東京へ投下された新型爆弾。バレンタイン休戦臨時条約後に起こった、2003年の南沙諸島での中国－ベトナム間の紛争など、セカンドインパクト後に発生した紛争は枚挙にいとまがない。これらの紛争の沈静化に、再編された国連が働きかけた。なお、確認されているだけでも、国連加盟国のうち独・米[illegible]再編[illegible]多大な力を[illegible]は、国連管轄の特務機関NERVの施設がある[illegible]

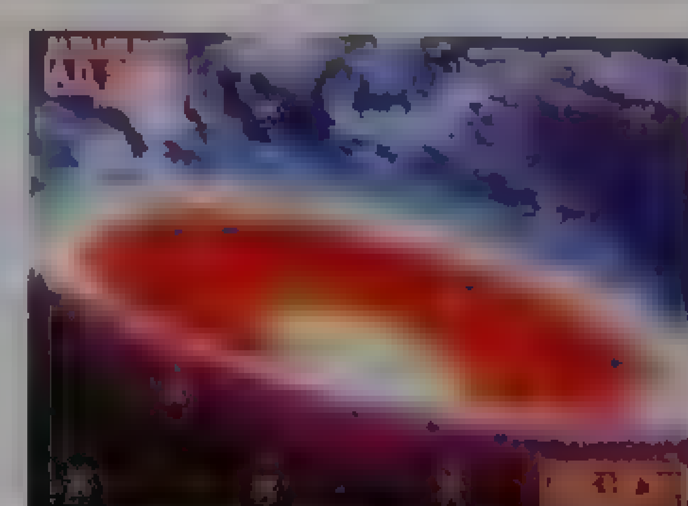
●世界の主要国と紛争地域

1 日本	7 中国
2 南極	8 南沙諸島
3 アメリカ	9 カンボジア
4 ドイツ	10 インド
5 イギリス	11 パキスタン
6 ロシア	12 ヨルダン

セカンドインパクト発生に伴い南極大陸は消滅。国連再編後は、米、独、英、露が国連の主要国の地位に納まっている。対して、20世紀と比べて影響力を大きくしたのが日本である。それを反映してか、日本は国連本部の移管地にしてNERV本部の建設地でもある。一方、中国はMAGIタイプのコンピュータを持つ大国ながら、国連における発言力は縮小されたようだ。また南沙諸島、カンボジア、インド、パキスタン、ヨルダンなどアジア～中東圏ではさまざまな紛争が勃発し、しばらく不安定な情勢が続いた。

●セカンドインパクトの影響

南極大陸において発生した大規模な爆発により、地球規模の被害をもたらした未曾有の大災厄――セカンドインパクト。南極大陸の消滅（融解）と爆発エネルギーにより、水面の上昇、地軸の変化といった影響が各国に甚大な被害を与えた。発生直後の2000年から2001年にかけては、その災害による難民が大量に発生し、気候風土の多大な変化にともなう作物の不作から飢餓も多発した。こうした混乱から世界各地で紛争が勃発するが、2001年にバレンタイン休戦臨時条約が締結し、世界協調復興路線の元、国連の再編へと進んで行く。



2000年9月13日、発生したセカンドインパクト[illegible]

●新生された国連と直属の特務機関

独、米、英、露に日本を加えた5ヶ国が中心となって再編された国連により、世界各国は統一的協調関係の元で復興が進められていった。新生された国連は、加盟各国の軍隊を統合した強大な国連軍をもって世界の治安維持に貢献、不安定な政情により勃発した各地の紛争を収束させ、世界的秩序を取り戻すことに成功した。国連がいわば世界政府ともいえる存在になって以降、セカンドインパクト直後から予想された未知なる敵、使徒を殲滅するための特務機関の設立準備も、その主要国が先導する形で進められてきた。

NERV本部が保有する[illegible]人型兵器エヴァ[illegible]開発も国連承認のもとで行われ、ドイツ、アメリカ等でも建造[illegible]

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー・EVA製作委員会

新世紀年表

NEON GENESIS CHRONOLOGY

第三十話
まごころを、君に
TRUE END OF EVA

人類補完計画、発動

黒き月、出現

初号機、生命の樹へ実験

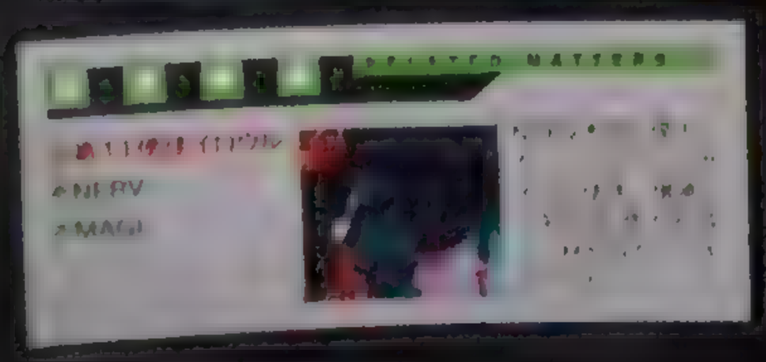
何を望むの？
僕を見捨てないで
これがあなたの望んだ世界

マイクロマシン

MICRO MACHINE

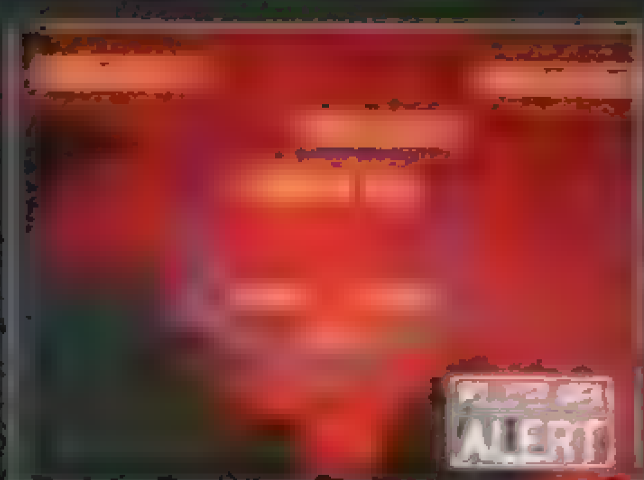
マイクロマシンとは、mm（ミリメートル）からμm（マイクロメートル）の機械構造を持つ超小型機械（流路などのデバイス自体が動かない物も含む）を指す。世界的にはMEMS（Micro Electro Mechanical System）と言われるが、日本及び欧州圏ではマイクロマシンと呼ぶ場合が多い。その歴史は1980年代の後半までさかのぼる。米国で半導体微細加工技術を利用したμmオーダのシリコン製歯車やモータが製作されたことに端を発し、世界中でマイクロマシニングという言葉が注目されるようになった。日本では、このマイクロマシニングに、機械システム全体を小型化するという概念を含め「マイクロマシン」という言葉が誕生。通商産業省工業技術院が21世紀を担う基盤技術として注目し、1991年から10年計画で「マイクロマシン技術の研究開発」プロジェクトをスタートさせた。また、各国でも多くのプロジェクトがスタートし、世界中の研究機関において様々な研究開発が行われており、21世紀においては、さらに微小なナノテクノロジー研究も活発化。その実用のために、マイクロマシン技術からのトップダウンアプローチが重要との声も高くなり、新たな挑戦が試行されている。

初めてNERVへの侵入を果たした使徒――第11使徒イロウルは、このマイクロマシン（あるいは細菌）サイズの使徒であったと分析されている。自己増殖機能を持ち、群体で情報処理、自己組織化を行うという生態パターンは、著名な工学者キム・エリック・ドレクスラーが開拓し始めた分子ナノテクノロジーにおける「万能分子アセンブラ（組立者）」――自己複製可能でそれ以外のものも組み立てる能力を持つ微細なオブジェクト――という発想を彷彿とさせるものであった。ドレクスラーの理論においては、一個が分子ひとつ程度の大きさである機械をタンパク質を元に作り出すことが可能になれば、それが自分のコピーを作り出すだけでなくその子孫もまたコピーを作る、といったような爆発的な増殖すらも可能となる。ただし、凄まじい技術的発展を遂げた21世紀においても、万能分子アセンブラが作成可能となったという報告はなされていない。その実情のみを見れば、使徒の特殊な生態は明らかに人類の科学の限界を超えたものと言えるだろう。



マイクロマシンの基本的な定義については先に述べた通りだが、その技術を応用したnm（ナノメートル）サイズのナノマシンについても、マイクロマシンの一部と考える向きもある。そのサイズはμmであれば0.000 001m、nmであれば0.000 000 001mという非常に微小なものであり、細菌に匹敵する小ささである。なお、21世紀においてはmm以下の大型ロボットや自動車といった小型機械が作製されているが、そういったSF的な超小型機械のように、従来の機械加工で製作された機械についてはマイクロマシン（MEMS）に分類されないこともある。

ちなみに第11使徒については、他の使徒と同様に生体に分類されて然るべきものと考えられる。ただし、個体のサイズ、爆発的な増殖力、知能回路の形成など、能力を形成する特異なイメージは、先にのべた万能分子アセンブラに近いものだった。



プリブノーボックス全体を侵食した使徒。その驚異的な侵攻を食い止めるため、シグマユニットは物理閉鎖されたが、使徒の侵食を止めることはできなかった。

マイクロマシニングの発展

多くの国家プロジェクトがスタートし、世界中の研究機関において様々な研究開発が精力的に行われてきたマイクロマシン。そのため、マイクロマシンに関する研究、応用技術は、十数年程度という短い期間で急速な発展を遂げている。21世紀においてすでに確立された技術は、エレクトロニクスやメカトロニクスに限らず、フォトニクス（情報通信、光通信）、バイオテクノロジー、医療をはじめとして、航空、宇宙、ケミカルなど、幅広い分野で応用されている。

応用分野と具体的な有用素材、デバイス

手探り状態で始まったマイクロマシン技術の研究ではあったが、十数年の間に新しい製造技術やデバイスが数多く創出され、具体的な応用を示せる技術水準にまで発展を遂げた。それらの技術の応用は、発電施設で使用する高度なメンテナンスシステム、医療応用マイクロカテーテルといった限られた分野のみならず、自動車用各種センサ、光通信用デバイス、インクジェットプリンタのヘッドといった一般製品にも広く応用されている。

青葉シゲルが「コンピュータそのもの」と口にしたように、そのマイクロマシンサイズの使徒の群体が描いた光学模様は、電子回路に酷似していた。

特記事項

第11使徒の進入経路

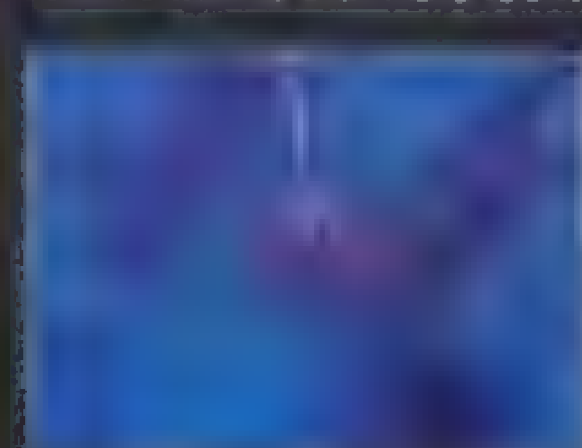
マイクロマシンタイプの使徒とその特徴

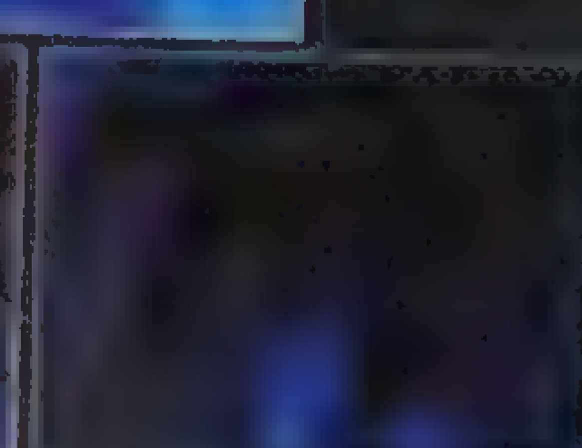
マイクロマシンタイプの第11使徒は爆発的な増殖力を持つだけでなく、A.T.フィールドの展開、オゾンへの抵抗力の形成、電子回路の形成など様々な機能を生み出している。周囲の条件やそれ自身の内部の発達によって急速に変化し、より優れた機能や複雑な機能を生み出すさまは、まさしく「進化」と呼べるものである。第11使徒は、個体レベルでの進化がつぶさに観測された非常に特殊な使徒と言えるだろう。

使徒の特徴

その個体はマイクロマシンサイズながら増殖する能力を有していた第11使徒は、もともと他の使徒と同様にA.T.フィールドも有していたものと思われる。また、基本的な行動原理として、アダムとの接触あるいはNERV本部の破壊を目論んだことも、これまでの使徒と同様である。ただし、それ以外の機能や行動原理については、常に状況に応じて形成されており、後天的なものと考えるのが妥当だろう。

自己増殖機能を持ち、群体でEVAの模擬体を侵食した第11使徒。模擬体が作動したことは、群体が高度な情報処理、自己組織化の能力を有していることの証左であろう。


第6パイプに侵入した第11使徒。オリゾーム（水中作業用ロボット）が発射したレーザーは、その群体が展開したA.T.フィールドに弾かれてしまう。



使徒の活動

第11使徒は、爆発的な増殖力を用いたNERV本部全体の物理的侵食ではなく、MAGIをハッキングして自滅させる道を選択した。その時点においては、増殖における侵食よりも自律自壊に要する時間の方が圧倒的に短いと判断し、より効率的な手段を選択したものと思われる。これに対しNERVは、赤木リツコ博士の発案による対応策を展開。本部の自爆を、寸前のところで阻止した。

侵攻しMAGIへの侵入を始めた使徒。EVAによる物理的殲滅を断念したNERVは、使徒に自滅促進プログラムを送り込むという作戦を展開した。

©BAINAX・カラー/Project Eva.

サードインパクト

THIRD IMPACT

約40億年前に発生した、原始地球と大質量の隕石の衝突による大爆発――ファーストインパクト。西暦2000年、南極大陸にて発生した隕石の大衝突と同規模の大爆発――セカンドインパクト。そして2015年、使徒すべての殲滅に成功した人類は、間を置かずゼーレの意思によって引き起こされた3度目の大爆発――サードインパクトに直面することとなった。

そもそもサードインパクトは、NERV本部内ターミナルドグマに安置された「使徒の始源」とされるアダムと、使徒が接触を果たした際に発生する「セカンドインパクトの再来」と言われていた。そのため、大惨事を未然に防ぐべく特務機関NERVが組織され、最後の使徒とされた第17使徒タブリスはそのNERVにより殲滅された。これにより、人類はサードインパクトの危機を回避したかに見えた。

しかし、実際にサードインパクトの発生条件を知る者は少なく、第17使徒もNERVに安置された「アダム」への接触を果たしていた。ただし、安置されていたものがアダムではなく「人類の始源」とも言われる「リリス」であったため、サードインパクトが発生すると言われていた条件は整わなかった。これは、強大な力を持つゼーレ、あるいはNERV上層部の思惟によるものであったと考えられる。さらに、未然に防がれたと考えられていたサードインパクトは、すべての使徒を殲滅したにも関わらず、第3新東京市を中心として発生。使徒の殲滅に成功した人類は、ゼーレが用意した、完璧な存在へと進化するための舞台へと足を踏み入れることとなったのである。

結果的に見て、サードインパクトが実際に意味するところは「人類補完計画」の発動に先駆けて発生する事象であった。ただし、想定されたシナリオの真の目的については、ゼーレと、そもそもの立案者である碇ゲンドウでは異なっていた。ゼーレは群体として行き詰まった人類を完全な単体生物へと進化させることを目的とし、ゲンドウはそれに加え、消失した碇ユイとの再会を考えていたのである。人類補完計画については、結果的に、ゼーレ主導によるシナリオが発動された。ただし、最終的な人類の行く末は、弱冠14歳の少年――EVA初号機の専属操縦者である碇シンジの意思に委ねられることとなったのである。

サードインパクトの概要

使徒の始源とされるアダムと、使徒が接触を果たした際に発生するとされていたサードインパクト。その情報自体が正確なものであったか定かではないが、実際に発生したサードインパクトと言われる大爆発は、まったく違った条件下で人為的に引き起こされた。その引き金となったのは、依代となるリリス（あるいはその代わりとなる存在）、複数のEVAシリーズ、ロンギヌスの槍（オリジナル）であった。これらを揃えたゼーレ主導のもと、サードインパクト——これを契機とした人類補完計画が発動されたのである。なお、ゲンドウはアダムの肉体とリリスの魂を宿したレイを用いて計画を進めようと目論んでいたようだが、結果的にその計画は潰えている。そのため、実際に二者の組み合わせで計画が発動し得たのか定かではない。

NERV本部を直撃したサードインパクトは、周辺の戦自主力大隊もろとも総裁を一掃。第2波により本部周辺を崩壊する程の大爆発だった。

サードインパクトの発生

戦自によってNERV本部をほぼ制圧し、EVAシリーズをもってEVA弐号機を容赦なく殲滅したゼーレ。先に述べた通り、その後に発生したサードインパクトは彼らの手によって発生した人災である。ゼーレは、人類を完全な単体生物へと進化させるため、あえてサードインパクトを発生させ、人類補完計画を推し進めたのである。なお、サードインパクトの爆心地である第3新東京市は、その時点ですでに壊滅状態にあったため、爆発による被害は少なかったものと思われる。

初号機を依代とした人類補完計画の発動

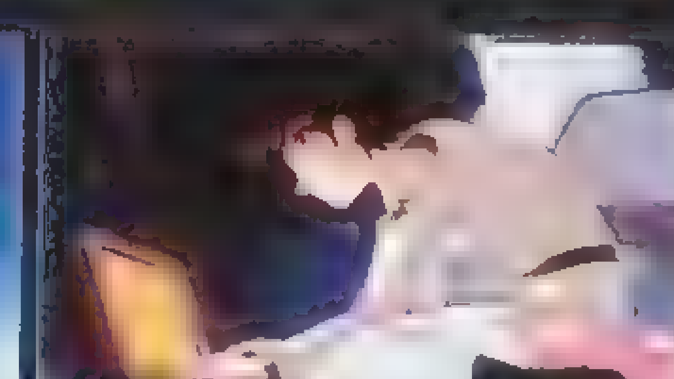
使徒とアダムの接触により生じるものとされていたサードインパクト。しかしその大爆発は、人類補完計画を進行した過程に起きるひとつの事象に過ぎなかった。ゼーレは人類補完計画を発動させるために必要とされる、リリスの代わりとなる依代（EVA初号機）、9体のEVAシリーズに加えて、ロンギヌスの槍の準備をも整えた。その結果、精神界の三次元的イメージの実体を図形的に象徴したものとされる「セフィロートの樹」が具現し、彼らが望む人類補完計画が発動される運びとなった。

人類補完計画の発動を、人々を真の姿に戻す"儀式"と呼んだゼーレ。大爆発の発生は、彼らにとって儀式に必要な事象だったようだ。

ゼーレが主導した計画には、EVA初号機、EVAシリーズ、ロンギヌスの槍などが用いられたと考えられる。なお、月周辺にあったロンギヌスの槍は、EVA初号機の暴走と同時に地上へと帰還した。

セフィロートの樹発生時の状況

セフィロートの樹出現時、EVAシリーズはアンチA.T.フィールドを発生。その事象は、サードインパクトの前兆と考えられていたようだ。なお、この際にNERV本部にて観測していた次元測定値は反転してマイナスを示し、数値化ができない状態となった。この現象は、アンチA.T.フィールド発生時の特徴のひとつであるようだ。



EVAシリーズのS²機関解放により、アンチA.T.フィールドが発生。分析を進めていた伊吹マヤは、すべての現象が15年前に酷似しているという事実に行き当たる。

サードインパクトの発生と人類補完計画の進行

人類に及ぼした影響

サードインパクトは、依代がリリスではなくその分身であるEVA初号機となったこと、また、EVAシリーズの数が予定より少なかったことを除けば、ほぼゼーレの予定通りに進行。ジオフロントを真の姿に戻すことに成功し、人類の補完へと移行した。ただし、要となる人類の補完自体の進行には、計画の立案者であるゲンドウや、計画を遂行したゼーレにも予定外であった事象が取り込まれたようである。ゲンドウにとっては、レイの離反。ゼーレにとっては、レイの存在と、人類の最終的な行く末が初号機専属操縦者であるシンジに託されたことがそれに当たると言えるだろう。その結果、人類補完計画は全人類の心の弱い部分を互いに補完させることも、群体として行き詰まった人類を完全な単体生物へと進化させることもなく、人類はシンジの意志に基づいて再び個々に存在する世界へと戻されることとなったと考えられる。

6つの扉が開かれたことにより、すべての人類はその形を維持不可能に。L.C.L.へと還元された人類はシンジの選択を待つこととなった。

サードインパクト発生時の出来事

S²機関を解放したEVAシリーズにより、初号機を依代として引き起こされたサードインパクト。爆発はすでに壊滅状態にあった第3新東京市を中心に発生し、ジオフロントは真の姿をさらけ出すこととなった。なお、NERV副司令官の冬月コウゾウは、その真の姿を「人類の生命の源たるリリスの卵、"黒き月"」と呼んだが、その存在の意味と、NERVがあえて本部を建設した真意は不明である。

NERV本部上空には、初号機を中心としたセフィロートの樹が描き出され、S²機関の臨界とともに大爆発が発生。ジオフロントは、球状の真の姿を現わした。

人類補完計画の進行

EVAシリーズとリリスとの融合を果たしたレイが同化し、外部から強制的に個々のA.T.フィールドに干渉することで、個体生命の形状を消失させるアンチA.T.フィールドが発生。人類補完計画が進行されることとなる。これによりL.C.L.と化した人類は、リリスを介して黒き月へと還ってひとつとなり、その最終的な行く末は初号機専属操縦者であるシンジに託された。

リリスとEVAシリーズの共鳴により、地球規模で展開されるアンチA.T.フィールド。リリスはさらに、命の胎芽たる生命の樹と化した初号機をも取り込んだ。

追加報告

セカンドインパクトとの相違点

©GAINAX・カラー／Project Eva. ©GAINAX・カラー

[illegible]たるNERV本部戦術作戦部作戦局第一課所属の葛城ミサト一尉、第10使徒戦直前に三佐へ昇格によ[illegible]され、その指揮の下で展開される。[illegible]体ごと[illegible]、[illegible]たのは、彼女の手腕もあったと言えよう

裏死海文書に記された使徒の出現

特務機関NERV — 使徒と呼ばれる未知なる巨大な戦闘兵器（謎の生命体）の殲滅を目的とした国連直轄の組織である。使徒の存在についてはセカンドインパクト以前にゼーレが入手、解読した裏死海文書に、その総数や出現時期などについて記されていたようだ。NERV結成、および対使徒戦闘用兵器であるEVAの建造は、この裏死海文書に基づいているとされる

使徒の目的は、NERV本部施設大深度地下に秘匿されている第1使徒アダムとの接触、融合であり、この結果として人類を滅亡させるサードインパクトが発生すると考えられている。それゆえに使徒の出現と侵攻目的地は、必然的に日本のNERV本部が置かれている第3新東京市であり、総[illegible]（NERVの対使徒戦略は本部防衛となることが[illegible]い。な[illegible]第3新東京市以外の都市が使徒の最終攻撃目標となった記録や兆候はない。そのため、使徒戦略の要となるEVA（その保守パーツも含む）は、NERV本部へ優先的に配備されている

なお、すべての使徒の殲滅は、サードインパクトを未然に防ぐだけでなく、人類をさらなる進化へと促す人類補完計画発動のためのステップでもあるとの説もある

NERVの対使徒戦略プランには、国連軍及び戦略自衛隊のサポートも含まれているものの、15年振りの出現となった第3使徒戦において、既存の現用兵器がまったく効果を得られなかったこともあり、早期警戒網としての役割以外は有名無実化しているのが現状である。また、NERVと戦自自体の関係性も必ずしも良好とは言えず、結果として使徒殲滅の作戦プランの立案と実行に関しては、事実上NERVが単独で遂行していると言ってもよいだろう。当然ながらその有用戦力となるのはNERV本部が保有する3機のEVAのみであるが、使徒は原則複数体での襲来はないため、彼我戦力差はイーブンであると考えられる

第3使徒以降、使徒は短いスパンで頻出し、NERVは都合15回の使徒迎撃作戦を実行、結果的にすべて成功を収めている。しかしながら、第13使徒戦以降はNERV側にも甚大な被害がおよんでおり——第13使徒による3号機の損失、第14使徒による本部施設への大打撃、第16使徒殲滅時の零号機、第3新東京市の消失など——、3機のEVAによる対使徒戦が回を重ねるごとに難しくなっていたことをうかがわせる。しかし、第17使徒タブリス戦をもって、すべての使徒を殲滅。NERVはその目的を完遂するに至ったのである

NERV分析班 使徒15の傾向と対策

使徒は系統的な一様ではなく、その戦術プラーンも定石的なパターン化をすることはできていない。NERVは、その都度使徒の特徴を見極め、それに応じた柔軟な対応をすることで、使徒を確実に殲滅していったのである。

第3戦
第3使徒サキエル戦

15年振りに出現した使徒サキエルの迎撃は、NERVとEVAにとって初の実戦であった。当初、国連軍が撃破を試みるも失敗、その指揮権はNERVへ委譲された。同日、サードチルドレンがEVA初号機にて出撃。一旦は使徒に圧するも突如再起動、暴走しつつ強制的に凍結を撃破したのである。

初のEVAと使徒との戦闘〜第一次直上会戦〜しかし、当初初号機は使徒に手も足も出なかった。

第3使徒
サキエル

水

光の槍
怪光線
自爆

SACHIEL

第4戦
第4使徒シャムシエル戦

第3使徒の襲来から3週間後に出現した第4使徒。その迎撃戦は、EVAが携帯武器を使用しての初戦闘となった。戦闘中、アンビリカルケーブルの切断、2名の民間人をエントリープラグ内に収容するなどのアクシデントはあったものの、暴走もなく目標の殲滅に成功している。

プログ・ナイフで使徒を殲滅。この作戦で使徒のサンプルを無傷で入手することにも成功した。

第4使徒
シャムシエル

昼

光の触手
形態移行

第5戦
第5使徒ラミエル戦

ヤシマ作戦と命名された第5使徒戦は、初EVAによる実力戦となった。本作戦には支援として開発中であった零号機も実戦投入。第3新東京市上空に静止し、地下施設にドリル状のシールドで侵攻する目標に対し、ポジトロンスナイパーライフルを使用して零号機が狙撃を敢行し撃破した。

生命体特有の波長をラミエルに感知されビーム攻撃を受けていた

第5使徒
ラミエル

雷

加粒子砲
掘削シールド

RAMIEL

第6戦
第6使徒ガギエル戦

第6使徒はEVA弐号機輸送のため太平洋上を航行中の国連艦隊を襲撃した。同行していたセカンドチルドレンが弐号機にて緊急出撃。初陣とは思えぬ見事な操縦により目標を海中にて殲滅している。なお、使徒が艦隊を襲撃したのは、アダムを極秘裏に輸送中だったためとも言われている。

弐号機の初陣となった第6使徒ガギエルとの戦闘。洋上で激しい戦いが繰り広げられた。

第6使徒
ガギエル

魚

体当たり
かみつき

GAGHIEL

第7戦
第7使徒イスラフェル戦

海岸より上陸した第7使徒に対し、迎撃に出た零号機、弐号機であったが戦闘に失敗。零号機が作戦を強行遂行する。零号機は弐号機にて一時的に活動を停止。その間に再生中枢を受けた両機パイロット小破スレッドな連係攻撃が可能となり、活動を再開した第7使徒を二機で撃破した。

使徒を倒した直後に受けた第7使徒は、2個体に分離する特定外の反応を見せる。

第7使徒
イスラフェル

音楽

分離・合体
修羅
鉤爪

第8戦
第8使徒サンダルフォン戦

第8使徒は覚醒以前に発見された。生体分析のため当初NERVは目標の捕獲を目的とした作戦を立案。潜行装備のD型装備を装着した弐号機により、捕獲作戦が浅間山火口内にて実行される。が、作戦中に目標が覚醒。作戦は即座に目標殲滅へと変更され、初号機の援護もあって撃破にいたる。

浅間山の火口内で探知された時の第8使徒は、ヒトの胎児を思わせる幼生体の姿であった。

第8使徒
サンダルフォン

胎児

急速羽化
かみつき

SANDALFON

第9戦
第9使徒マトリエル戦

箱根海付近より上陸した巨大節足動物のような形態の使徒。使徒出現時、NERV本部は予期しない事故により電力供給を断たれ、通常兵器を寄せず、自慢の侵攻を許してしまう。が、直前の自爆機構のアンプルにてEVA3機の撃破に成功。本部直上にて小破程度を失敗攻撃にて撃破した。

第9使徒の中央部から強力な溶解液を噴射するなど、強酸性の液体の攻撃を用いた。

第9使徒
マトリエル

雨

溶解液

MATRIEL

第10戦
第10使徒サハクィエル戦

インド洋衛星軌道上に出現した質量爆弾である第10使徒は、NERV本部上空へと移動。葛城三佐はEVA3機のA.T.フィールドで直撃を受けとめる破天荒な作戦を立案する。第二に第3東京市、および第壱東京市を直撃させたう丸で作戦は決行され、被害は最小限に留めて、使徒殲滅に成功した。

使徒は成層圏内のA.T.フィールドを使用し、作戦に対する質量爆弾を撃ちこんできた。

第10使徒
サハクィエル

空

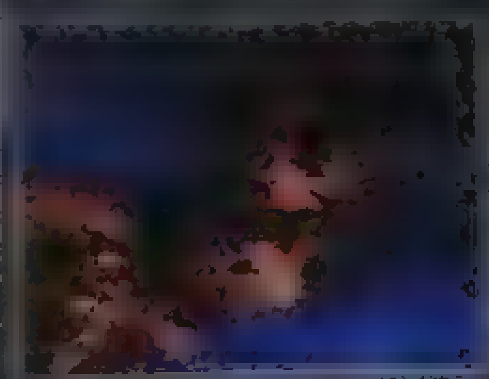
加速攻撃
質量爆弾
シャミング

© GAINAX・

/// 第 戦 ///

第11使徒イロウル戦

本部の保守パーツ内に潜んでいた の第11使徒は、MAGIをハッキング。作戦立案時、MAGIの破棄も検討されたが、赤木リツコ博士は使徒をいわば自滅させるプログラムを送り込むプランを提案。その高度なプログラミング技術により使徒は殲滅されMAGIの侵食も阻止された。



第11使徒は急速に増殖、一種の進化を続けながら本部施設を冒していくのであった。

第 使徒
イロウル

恐怖

自己進化
知能回路の形成

IROUL

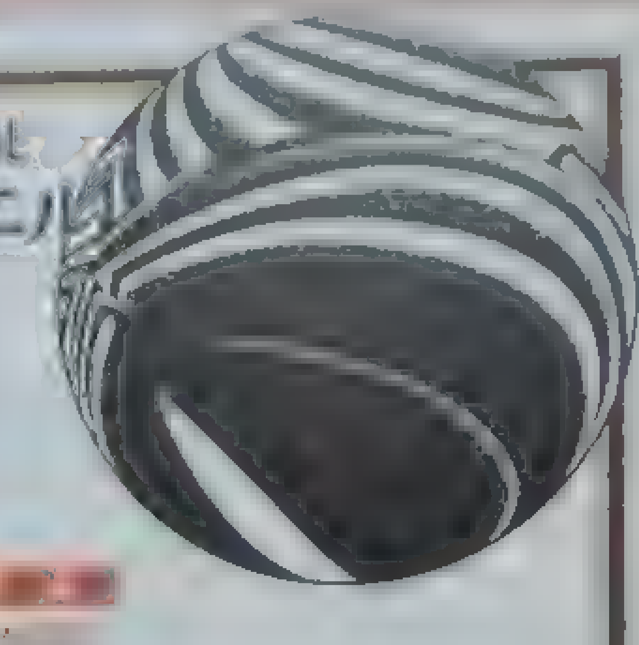
/// 第10戦 ///

第12使徒レリエル戦

第12使徒は突如として第3新東京市に出現。独断先行した初号機がその内部に呑み込まれる事態が発生する。作戦は初号機救出へと切り替えられ、N^2兵器の爆発エネルギーを用いた救出計画が作成される。しかし、作戦決行直前に初号機が暴走状態で使徒内部より脱出。使徒も殲滅された。

浮遊するスフィア状に見える物体こそ使徒本体と思われたが、それは使徒の"影"であった。

第12使徒
レリエル



夜

能力 ABILITY
虚数空間の形成

LEL

Illustration by (twinbell) Tokiko Yuzawa

/// 第 戦 ///

第13使徒バルディエル戦

米国より空輸されたEVA3号機内部に侵入していた第13使徒は、覚醒後に機体と同化。NERVは3号機を使徒とみなしEVA3機を出撃させた。しかし、3号機パイロットの安否を気遣うサードチルドレンが戦闘を拒否。碇司令はダミープラグで初号機を制御し、これを撃退した。

使徒に乗っ取られた3号機の戦闘力は凄まじく、弐号機、零号機とも一撃で倒されてしまう。

第13使徒
バルディエル

殺

寄生

BARDIE

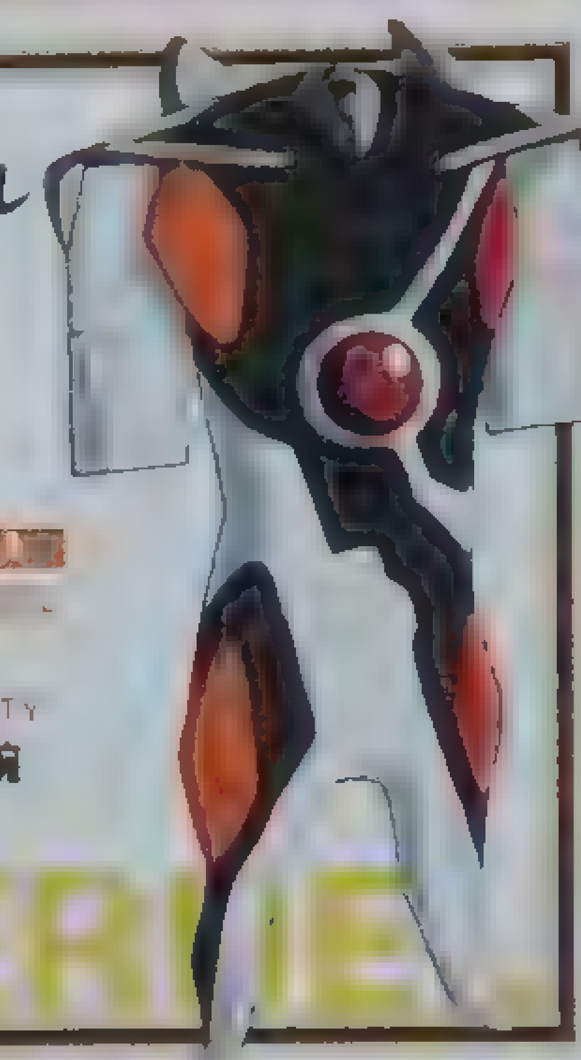
/// 第12戦 ///

第14使徒ゼルエル戦

出現した第14使徒は弐号機の連続斉射攻撃や零号機のN^2爆弾による自爆特攻にもびくともせず、NERV本部内発令所へと到達。危機一髪で初号機が現われ、形勢は逆転したかに見えたが、電源切れで窮地に陥る。しかし初号機は三度暴走し使徒を組伏すと、その体躯を捕食し殲滅にいたった。

驚異的な攻撃力を持った第14使徒。その迎撃戦は第二次ジオフロント攻防戦と呼称される。

第14使徒
ゼルエル



SYMBOL
力

ABILITY
伸縮自在腕
怪光線

ZERUEL

/// 第 戦 ///

第15使徒アラエル戦

第10使徒同様に衛星軌道上に出現した使徒である第15使徒。弐号機が地上から対空狙撃攻撃を行うが、使徒の精神攻撃を受け狙撃は失敗。零号機による超長距離狙撃も効果なく、碇司令はロンギヌスの槍の使用を決断。零号機が投擲攻撃を行い、使徒は殲滅された。

EVAが直接攻撃できない高度に留まる第15使徒はロンギヌスの槍によって撃破された。

第15使徒
アラエル

鳥

可視波長のエネルギー波

ARIEL

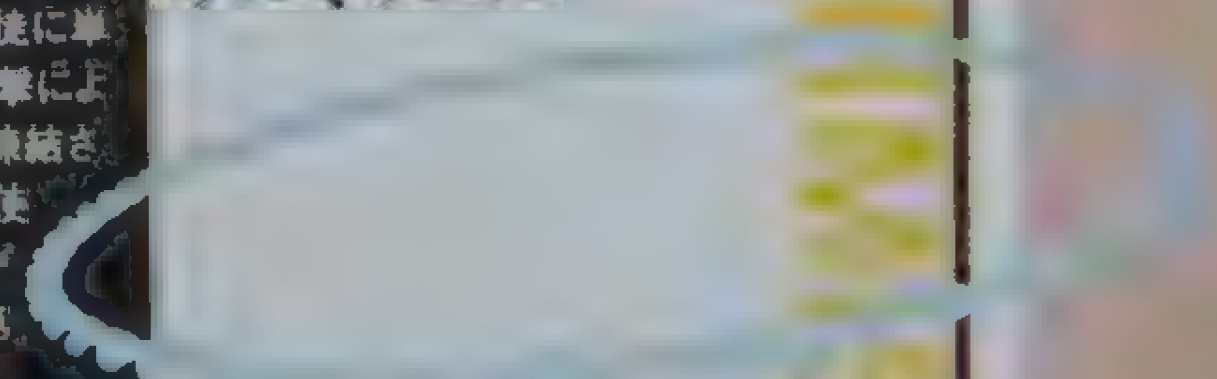
/// 第 戦 ///

第16使徒アルミサエル戦

強羅方面から侵攻してきた第16使徒に単独で迎撃に出た零号機は、使徒の攻撃により侵食を受ける。対第14使徒戦後、凍結されていた初号機が援護に発進するが、使徒との同化が進みつつあった零号機が自爆することで使徒は殲滅。しかし、第3新東京市もその爆発で消滅した。

第16使徒は、自らの形状を紐状に変えてEVAに接触、融合、および侵食を展開した。

第16使徒
アルミサエル



子宮

侵食
形状変化

ARMISAEL

Illustration by (twinbell) Tokiko Yuzawa

/// 最終戦 ///

第17使徒タブリス戦

最後の使徒は、NERVに送り込まれてきたフィフスチルドレンであった。使徒である彼はサードチルドレンと友好的に接触するなどしたのち、無人の弐号機を操りターミナルドグマへ侵入。アダムとの接触を果そうとする。が、追撃してきた初号機により捕獲され、無抵抗のまま殲滅された。

無人の弐号機を操る第17使徒。初号機との間に激闘が繰り広げられた。

第17使徒
タブリス

自由意志

能力 ABILITY
EVAとの同化

TABRIS

特記事項

第1使徒と第2使徒

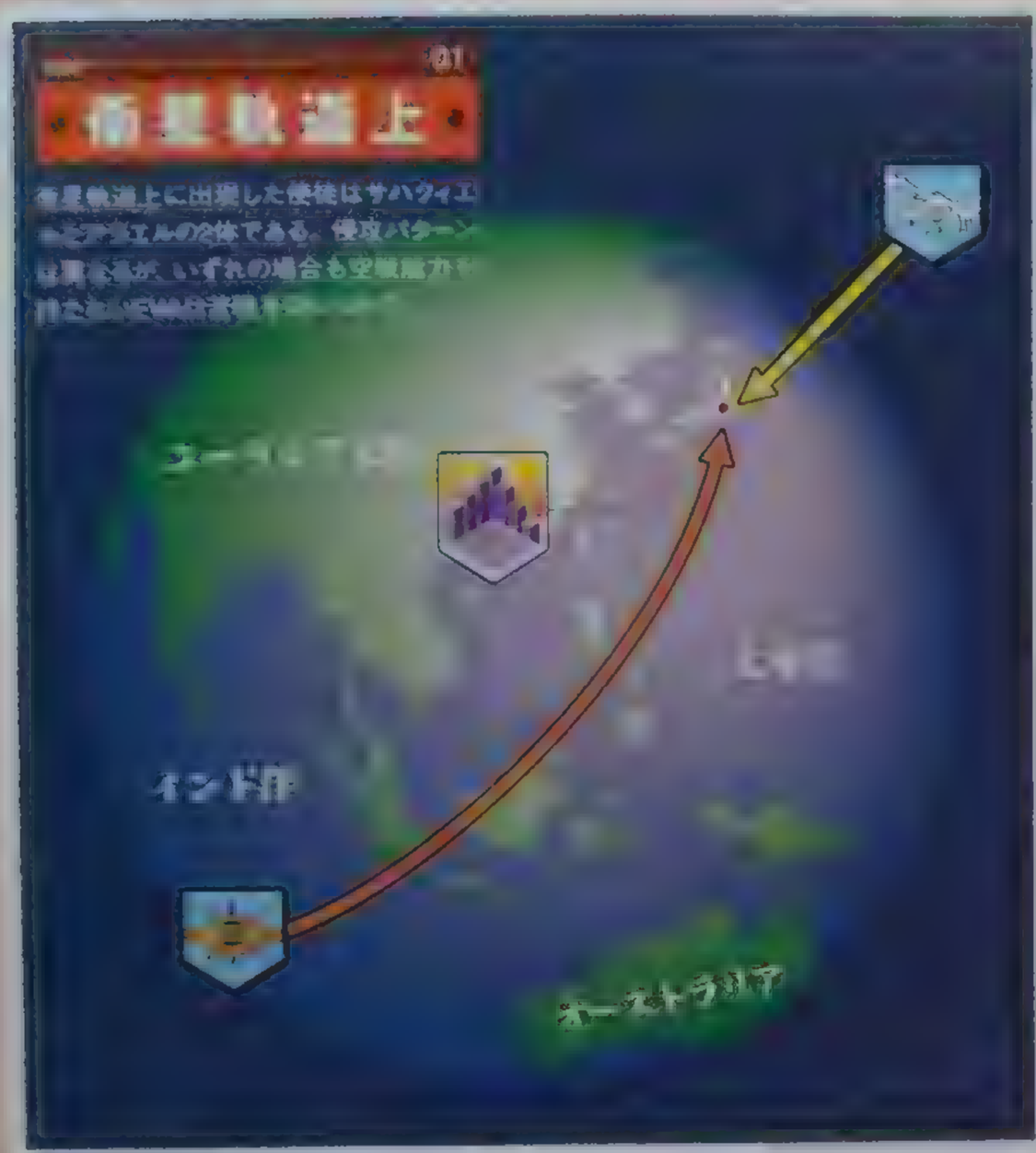
NERVが殲滅した使徒は、第3から第17使徒までの15体である。使徒の名称や出現順位は裏死海文書に記されていたというのが定説であり、最初の使徒である第1使徒アダムは南極に出現した光の巨人である。第2使徒は、ターミナルドグマ内にてアダムとされていた白い巨人リリスであるという。この第2使徒がなぜターミナルドグマに安置されていたかは諸説が、地下空洞発見時よりそこに存在していたとする説が有力である。

南極大陸に出現した光の巨人。この使徒の存在こそセカンドインパクトの引き金とされる。

ターミナルドグマに安置されてきた巨人は、アダムではなくリリスであった。

各使徒の出現場所と侵攻ルート

使徒の出現や侵攻ルートは一様ではないが、多少のパターンがある。海岸線からの侵攻、NERV本部直近への強行出現、衛星軌道上からの侵攻や攻撃などである。ただし、いずれの使徒もその目的地は、NERV本部(に安置されたアダム)である。



衛星軌道上に出現した使徒はサハクィエルとアラエルの2体である。侵攻パターンは異なるが、いずれの場合も空戦能力を有した強力なNERV専用ターゲット。

日本国内の広域で出現を確認できたケースは、幾例か存在する。日本近海の太平洋上に出現したガギエルや浅間山火口内で確認されたサンダルフォンなどが、これに相当する。

NERV本部近郊、もしくは本部内まで使徒の侵攻を許してしまった事例は非常に多い。また、その出現を確認できたのがNERV本部内侵入後であったケースもある。

表面アイコン

使徒

- 第3使徒 サキエル
- 第4使徒 シャムシエル
- 第5使徒 ラミエル
- 第6使徒 ガギエル
- 第7使徒 イスラフェル
- 第8使徒 サンダルフォン
- 第9使徒 マトリエル
- 第10使徒 サハクィエル
- 第11使徒 イロウル
- 第12使徒 レリエル
- 第13使徒 バルディエル
- 第14使徒 ゼルエル
- 第15使徒 アラエル
- 第16使徒 アルミサエル
- 第17使徒 タブリス

地形

- 第3新東京市
- 山岳
- 使徒侵攻ルート
- 使徒攻撃ルート

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー

CASE NO.# 03

CR 新世紀 エヴァンゲリオン ～奇跡の価値は～

設置開始月　2007年2月
発　売　元　ファーストス
開　発　元　ビスティ

[illegible]ーに[illegible]「マシンナンバーエヴァ」と銘打たれ[illegible]な[illegible]士や[illegible]ーム性を重[illegible]ではなく、GAINAXの手がけた[illegible]ストーリーまでを惜しみなく投入され[illegible]ーズの集大成といえる。なお、[illegible]おなじみの「暴走モー[illegible]暴走モード碇ユイVer.」があり、「アス[illegible]モード」[illegible]「魂のルフラン」のカットプリ[illegible]が変化するという原[illegible]ファンにとってこれ[illegible]盛り沢山である。

SPEC

CR新世紀エヴァンゲリオン ～奇跡の価値は～　SF

- 賞球数：3&4&10&15
- 大当たり確率：1/397.2
- 高確率時：1/39.7
- 確変突入率：58.8%　全確変大当り含む67%
- 時短：全ての大当り終了後100回時短付き
- ラウンド数：15ラウンド
- カウント数：9カウント

CR新世紀エヴァンゲリオン ～奇跡の価値は～　VF

- 賞球数：3&4&10&13
- 大当たり確率：1/399.6
- 高確率時：1/40.0
- 確変突入率：67.9%　全確変大当り含む74%
- 時短：全ての大当り終了後100回時短付き
- ラウンド数：15ラウンド
- カウント数：9カウント

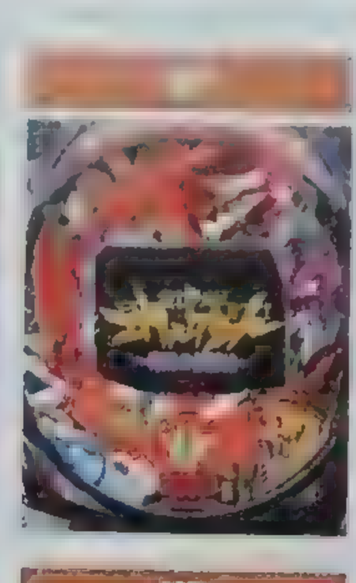
CR新世紀エヴァンゲリオン ～奇跡の価値は～　XF

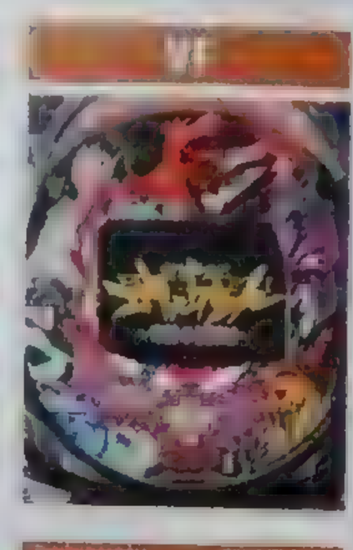
- 賞球数：3&4&10&14
- 大当たり確率：1/344.9
- 高確率時：1/34.5
- 確変突入率：56.1%　全確変大当り含む64%
- 時短：全ての大当り終了後100回時短付き
- ラウンド数：15ラウンド
- カウント数：9カウント

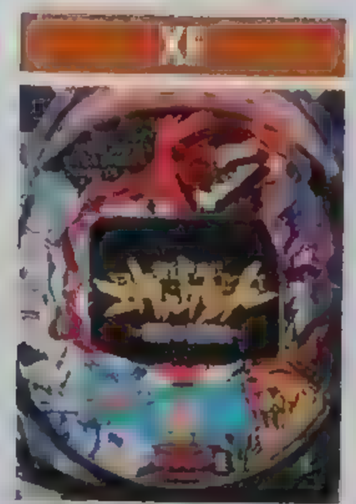
CR新世紀エヴァンゲリオン ～奇跡の価値は～　MF

- 賞球数：3&4&10&13
- 大当たり確率：1/256.5
- 高確率時：1/25.6
- 確変突入率：50.6%　全確変大当り含む60%
- 時短：全ての大当り終了後50回時短付き
- ラウンド数：15ラウンド
- カウント数：9カウント

MACHINE







CHARACTER

■図柄

リール配列用のキャラクター図柄は前作から、新・碇ユイや幼少時のアスカが加えられており、基本図柄のほかに突然確変3種「暴走モード」「暴走モード碇ユイVer.」「アスカ覚醒モード」の絵柄図柄がある。

ACTION

■リーチアクション

EVA3種（第4使徒[illegible]）[illegible]

新世紀
エヴァンゲリオン
～まごころを、君に～

設置開始日
発売元
開発元

配当　REEL

MACHINE

MODE

■暴走モード　パチスロエヴァにもついに搭載された暴走モードは、次回ボーナスまでプレイ確率をアップする仕組み。第3使徒サキエル戦での暴走が、原作アニメに続きCGで描かれた初号機によって再現される

DIRECTION

■様々な演出　アニメ、劇場版、初号機&初号機ウォーキングス確定演出、ATフィールド確定演出、暴走すべきか？校舎シーン、ミサト出現、ATフィールド、描かれた学園編ともいえるバスケットボール、ビーチバレー、ミサトの反撃など

GAINAX　Proud Eva　GAINAX

加藤夏希×エヴァンゲリオン・クロニクル

NATSUKI KATOH　EVANGELION CHRONICLE

本誌『エヴァンゲリオン・クロニクル』創刊時のイベントでは、芸能界でも屈指のエヴァファンとして知られる加藤夏希さんと本誌のコラボレーションが実現した。各イベントに綾波レイの制服姿で参加してくれた加藤夏希さんは、レイの大ファン。創刊日に書店を回った握手会では惣流・アスカ・ラングレーの衣装も用意してあったらしいが、迷わずレイのコスプレを選んだというエピソードがあるほど。さらにイベントでは、エヴァに対する思いを披露してくれたこともあり、本誌にとって非常に心強いエヴァファンの助っ人であった。

都内3箇所で行われた握手会では約600人ものファンと交流を行った。

握手会やテレビ出演だけでなく、新聞社にもレイの姿で訪れ本誌をアピール。

加藤夏希

PROFILE
生年月日：1985年7月26日
出身地：秋田県
血液型：AB型

12歳でのCMデビュー以来、数多くのドラマや映画に出演し、実力派女優として活躍。ファッションモデルとして高い人気を誇るだけでなく、タレントや声優など活躍の場は幅広い。

「あにてれ情報局」でのPR

テレビ東京では「あにてれ情報局」にて数回に渡り本誌が特集された。番組では司会のアメリカザリガニのおふたりと「TVチャンピオン」アキバ王の寺尾幸紘氏と共に、綾波レイのコスプレをした加藤夏希さんが出演。エヴァに関する濃い知識を披露している。なお、TVでは、葛城ミサト役の三石琴乃を起用した本誌のCMが流れた。

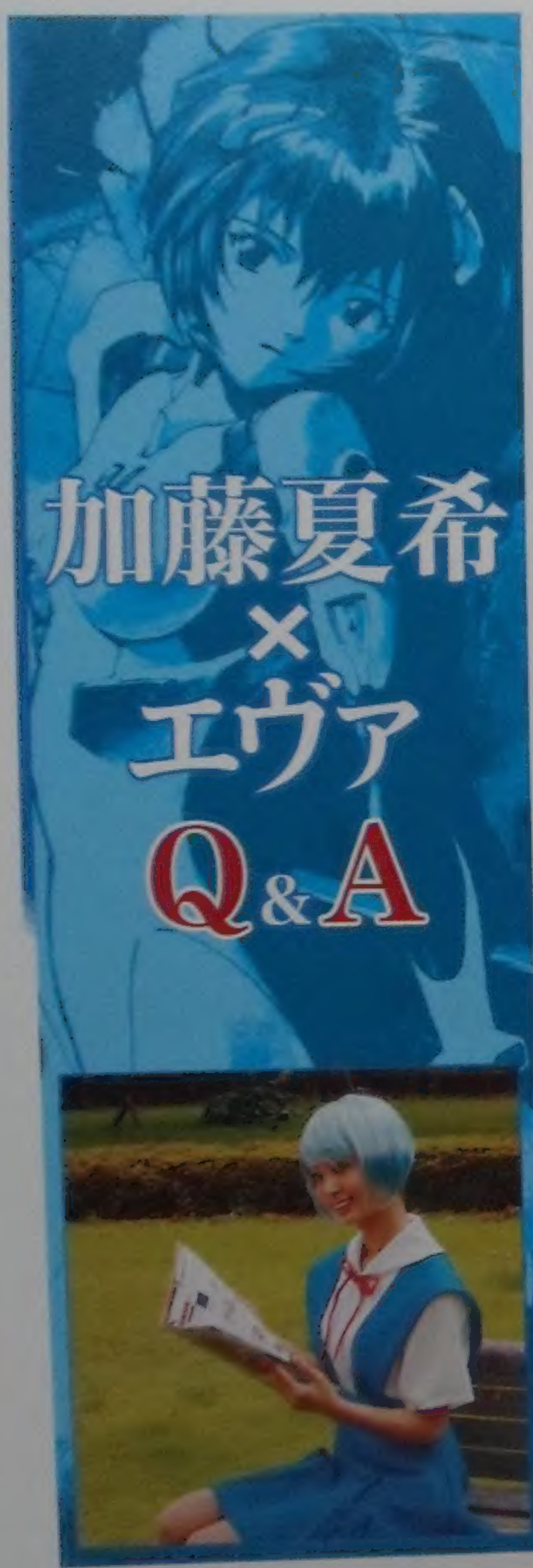
お互いのエヴァ知識を披露して勝者を決する、誌上限定フィギュア争奪戦で夏希さんは見事優勝。フィギュアをゲットしている。

「Re：あにてれ情報局」
毎週金曜日26：30～　テレビ東京で放送中　ブロードバンドでも配信！（http://anl.tv）

創刊イベント記念ブロマイドの配布

創刊イベントにおいて、加藤夏希さんの握手会だけでなく、神保町書泉ブックタワー、秋葉原書泉グランデ、福屋書店新宿サブナード店では、専用バインダーと本誌創刊号を購入されたファンに加藤夏希さんの撮り下ろし記念ブロマイドが配られている。夏希さんの綾波レイ姿のブロマイドは、誌上限定フィギュア以上にレアな一品であろう。

※情報は2007年8月のものです。



Q&A question1

Q.『新世紀エヴァンゲリオン』(以下、エヴァ)を初めて観るきっかけと感想、ハマった理由等をお聞かせ下さい。

A.声優の林原めぐみさんが大好きで「この人のようになりたい!!」と憧れていました。それで10年くらい前に林原めぐみさんが出演していると知ってレンタルビデオで借りましたが、最初は林原さんがほとんどしゃべらないし、当時小学生6年生くらいだったので内容が難しくて、これは私には無理だと思って観るのをやめてしまいました。その後DVDボックスが発売されたので、そこで初めて全部観ました。ハマった理由は、林原さんにしては珍しい、無口な役を演じていたからです。

Q&A question2

Q.女性キャラクターでは綾波レイがお好きとのことですが、どんなところが魅力ですか?

A.今まで聞いたことのなかった林原さんの声です。レイは、とても透明なムードと自らも犠牲にできるまっすぐな心、飾りっけがないのに圧倒的な存在感のあるキャラクターだと思います。

Q&A question3

Q.綾波レイ以外で好きな(印象的な)女性キャラクターはいますか?

A.三石琴乃さん演じる葛城ミサトです。小学生のときはよく理解できなかったけど、「ミサトってこんな悲しい思いをしていたんだ」とか歳を重ねていくたびに共感できて、それと同時に自分も成長していることを実感できます。

Q&A question4

Q.男性キャラクターでは渚カヲルがお好きとのことですが、どんなところに惹かれますか?

A.観るのを挫折したあと「カヲル」というキャラを知って、「誰だこのカッコイイ子は!!」と、途中で観るのを止めたことを後悔しました。カヲル君は中学3年のときに観直すきっかけです。惹かれた部分は顔です。

Q&A question5

Q.渚カヲル以外で好きな(印象的な)男性キャラクターはいますか?

A.山寺宏一さん演じる加持リョウジです。それとシンジ君の弱い部分は私も身につまされるんで、観ているときにシンクロするのは彼。だから絶対にレイはシンジ君と幸せになって欲しいと思うんです。

Q&A question6

Q.好きな(印象的な)話数やシーン、またセリフはありますか?

A.綾波レイが水槽の中にたくさん浮かんでいるシーンです。

Q&A question7

Q.実写版『エヴァ』で演じることが出来るならば誰の役が良いですか? また、他のキャラは誰に演じて欲しいですか?

A.もちろんレイ役です。ただ、声優だとレイは林原さんしかいないです。あの世界観を壊されたくないですね、ファンとして。

Q&A question8

Q.『バトルロワイヤルII【鎮魂歌】』の桜井サキ役の際、精神を病んだアスカが参考になったとお聞きしましたが、私生活や仕事などで『エヴァ』に影響を受けた部分はありますか?

A.エヴァの仕事が多くなり、コスプレができるようになりました。

Q&A question9

Q.『エヴァ』は放映から10年以上経ちますが、加藤夏希さんにとって『エヴァ』とは?

A.一生解けない謎です。

Q&A question10

Q.新劇場版や、今後の『エヴァ』に望むことはありますか?

A.林原さんが、一番最初のレイが見られるとおっしゃっていたので、新たな気持ちで観るつもりです。『エヴァ』への思いとしては、また10年20年とこの作品を通して、少しずつ謎解きをしていきたいです。

加藤夏希withプラグスーツ

加藤夏希さんは、第3新東京市立第壱中学校の制服姿のほか、『週刊プレイボーイ』誌上などで綾波レイになりきったプラグスーツ姿のコスプレも披露している。また、『デンゲキゲームズ』誌では、ウィッグなしのコスプレで制服とプラグスーツを着こなしており、まさに夏希さん本人が適格者のように見えるレアなショットを見ることができる。

→『デンゲキゲームズ』誌の表紙を飾ったプラグスーツ姿。ウィッグなしの姿は夏希さん自身がEVA適格者であるかのようだ。

写真提供:株式会社メディアワークス

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/TV4制作委員会

エヴァンゲリオンの軌跡

エヴァは、1995年10月にアニメ放送がスタートし、翌年3月に全26話が終了した。しかし、その後、口コミなどで爆発的に高まった人気は、劇場版公開へとつながった。公開時には社会的なムーブメントとなり、10年以上経過した今もその進化は続いている。

終わらないムーブメント

劇場版公開時には社会現象となり、従来のアニメファンだけでなく幅広い層に支持されたエヴァは、劇場版「THE END OF EVANGELION Air/まごころを、君に」にて、アニメ作品としては完結。しかし、企画立ち上げから14年、TV放送開始から12年の時を経ても、未だその人気は根強い。また、既にOAやグッズ展開もされていた海外においても、そのムーブメントは終わりを見せない。とくに企画立ち上げから10周年となる2003年からは、リニューアルプロジェクトが始動。セルアニメの映像を最新の技術でデジタルリマスター化したDVD、庵野監督監修によるPS2版ゲームソフト「新世紀エヴァンゲリオン2」、パチンコ「CR新世紀エヴァンゲリオン」などのリリースがあり、新たなファン層の獲得とともにブームをも再燃させている。

そもそものエヴァのスタートラインは、1993年9月に提出された企画案「人造人間エヴァンゲリオン」であった。この企画はアニメ化だけでなく、当初よりメディアミックス展開が考えられており、アニメ放送が開始される約1年前の1994年12月、キャラクターデザインも担当している貞本義行氏によるマンガ連載が開始。アニメ版をいわゆる"庵野版"とするのであれば、コミックス版は"貞本版"として、ふたつのベクトルでエヴァは語られることとなったのである。このマンガ連載は現在も「少年エース」誌上にて続いており、1993年に産声を上げたプロジェクトとしては、(アニメ版が完結しようとも)未だ終わりを告げていないと言えよう。また、貞本版は綾波やアスカのアイドル化へとつながるキャラクター人気の牽引役であることも見逃せない。貞本版では、扉絵などで本編には登場しない私服姿やコスプレ姿なども描かれており、ヒロインたちの新たな可能性を広げたのである。旬の移り変わりの激しいアニメヒロインの中で、綾波やアスカが今なお存在感を誇るのは、貞本版に頼るところも大きい。

そして、劇場版の完結から10年後となる2007年9月には新劇場版が公開される。新劇場版は全4作品となることが発表されており、新設定や新キャラクターも登場するようだ。庵野監督自らの手による作品の再構築は、エヴァの新たなスタートラインと言っても過言ではない。すでに10年を越えて続くエヴァは、今後もそのムーブメントが留まることはないであろう。これから20年後、30年後、エヴァがどんな進化を見せているか、今から興味は尽きない。

※情報は2007年8月のものです。

特記事項

NEON GENESIS EVANGELION DVD-BOX '07 EDITION

2003年にはリニューアル版のDVDがリリースされているが、2007年には「エヴァンゲリヲン新劇場版：序」の公開を記念した初回限定のDVD－BOXがリリースされた。TVシリーズだけでなく、劇場版や特典DISKも収録された10枚組のリーズナブルなセットなだけに、即日完売の店舗もあったようだ。

◀NEON GENESIS EVANGELION DVD-BOX '07 EDITION
発売日：2007年8月1日
価　格：29,400円(税込)
発売元：キングレコード

新世紀エヴァンゲリオン ～14年の軌跡～

NEON GENESIS EVANGELION 1993～2007

エヴァはその原点となる1993年9月企画案提出から始まり、TVシリーズの放送、劇場版の公開を経て、2007年には新劇場版公開へと至った。その間、貞本氏によるコミックス版のリリースは続いており、エヴァにおいてアニメ版にも劣らぬ存在感を示している。

1993年	9月20日	ガイナックス社内検討企画案（第1稿）「人造人間エヴァンゲリオン」提出
1994年	1月5日	企画案（第2稿）、および全26話のプロット完成
	4月	外部用企画書完成
	9月	第壱話、第弐話作画開始
	12月26日	「月刊 少年エース」2月号（創刊3号）にて漫画版「新世紀エヴァンゲリオン」連載開始
1995年	9月1日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume1」発売
	10月4日	「新世紀エヴァンゲリオン」TV放送開始
	12月6日	オリジナルサウンドトラック第1弾CDアルバム「NEONGENESIS EVANGELION」発売
1996年	2月3日	VHSビデオ・LD版「新世紀エヴァンゲリオン」リリース開始（全14巻リリース）
	3月1日	ゲームソフト第1弾セガサターン版「新世紀エヴァンゲリオン」発売
	3月12日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume2」発売
	3月27日	「新世紀エヴァンゲリオン」TV放送終了
	11月7日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume3」発売
1997年	3月15日	劇場版「シト新生」公開
	7月11日	ゲームソフトWindows版「鋼鉄のガールフレンド」発売
	7月19日	劇場版「THE END OF EVANGELION」公開
	7月19日	DVD版「新世紀エヴァンゲリオン」リリース開始（全7巻リリース）
	10月22日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume4」発売
	12月31日	「新世紀エヴァンゲリオン」CDシリーズ、レコード大賞企画賞受賞
1998年	3月4日	CD「EVANGELION：DEATH」、第12回日本ゴールドディスク大賞「THE BEST ANIMATION ALBUM OF THE YEAR」受賞
	3月7日	「REVIVAL OF EVANGELION　新世紀エヴァンゲリオン劇場版 DEATH（TRUE）²/Air/まごころを、君に」公開
	12月23日	VHSビデオ・LD版「新世紀エヴァンゲリオン劇場版BOX」発売
1999年	9月22日	DVD版「新世紀エヴァンゲリオン劇場版」発売
	12月17日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume5」発売
2000年	10月14日	「新世紀エヴァンゲリオン原画集 Groundwork of EVANGELION Vol.1」発売
	11月15日	DVD版「新世紀エヴァンゲリオンSECOND IMPACT BOX上巻」発売
	12月15日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume6」発売
	12月22日	「新世紀エヴァンゲリオン原画集 Groundwork of EVANGELION Vol.2」発売
2001年	2月21日	DVD版「新世紀エヴァンゲリオンSECOND IMPACT BOX中巻」発売
	3月30日	「新世紀エヴァンゲリオン原画集 Groundwork of EVANGELION Vol.3」発売
	6月22日	DVD版「新世紀エヴァンゲリオンSECOND IMPACT BOX下巻」発売
	10月26日	「新世紀エヴァンゲリオン劇場版原画集 Groundwork of EVANGELION The Movie Vol.1」発売
	12月1日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume7」発売
2002年	1月18日	「新世紀エヴァンゲリオン劇場版原画集 Groundwork of EVANGELION The Movie Vol.2」発売
	12月10日	リニューアルプロジェクト発表
	12月19日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume8」発売
2003年	3月	企画10周年リニューアルプロジェクト始動
	5月16日	ゲームソフトWindows版「鋼鉄のガールフレンド2nd」発売
	6月25日	DVD（リニューアル）版「NEON GENESIS EVANGELION DVD-BOX」発売
	7月24日	DVD（リニューアル）版「NEON GENESIS EVANGELION」リリース開始（全8巻リリース）
	11月20日	ゲームソフトPS2版「新世紀エヴァンゲリオン2」発売
	11月27日	DVD（リニューアル）版「NEON GENESIS EVANGELION 劇場版DVD」発売
2004年	4月23日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume9」発売
	11月3日	DVD版「THE FEATURE FILM NEON GENESIS EVANGELION DTS COLLECTOR'S EDITION」発売
	12月	パチンコ「CR新世紀エヴァンゲリオン」稼動
2005年	9月	パチスロ「新世紀エヴァンゲリオン」稼動
2006年	3月25日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume10」発売
2007年	6月19日	コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume11」発売
	8月1日	DVD版「NEON GENESIS EVANGELION　DVD-BOX '07 EDITION」発売
	9月1日	劇場版「エヴァンゲリヲン新劇場版：序」公開

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会